

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第5回）

日時：平成29年4月28日（金）

10：00～12：00

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス
7階学習室1

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 協議事項

- （1）今後のスケジュールについて
- （2）県民参画等の方法の検討について
- （3）具体的な客観的指標の例について

4 報告事項

平成29年県の施策に関する県民意識調査結果（速報）について

5 その他

6 閉 会

「岩手の幸福に関する指標」研究会 委員及びアドバイザー 名簿

(研究会委員)

氏名	役職名
竹村 祥子	岩手大学人文社会科学部 教授
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 監査役
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

(アドバイザー)

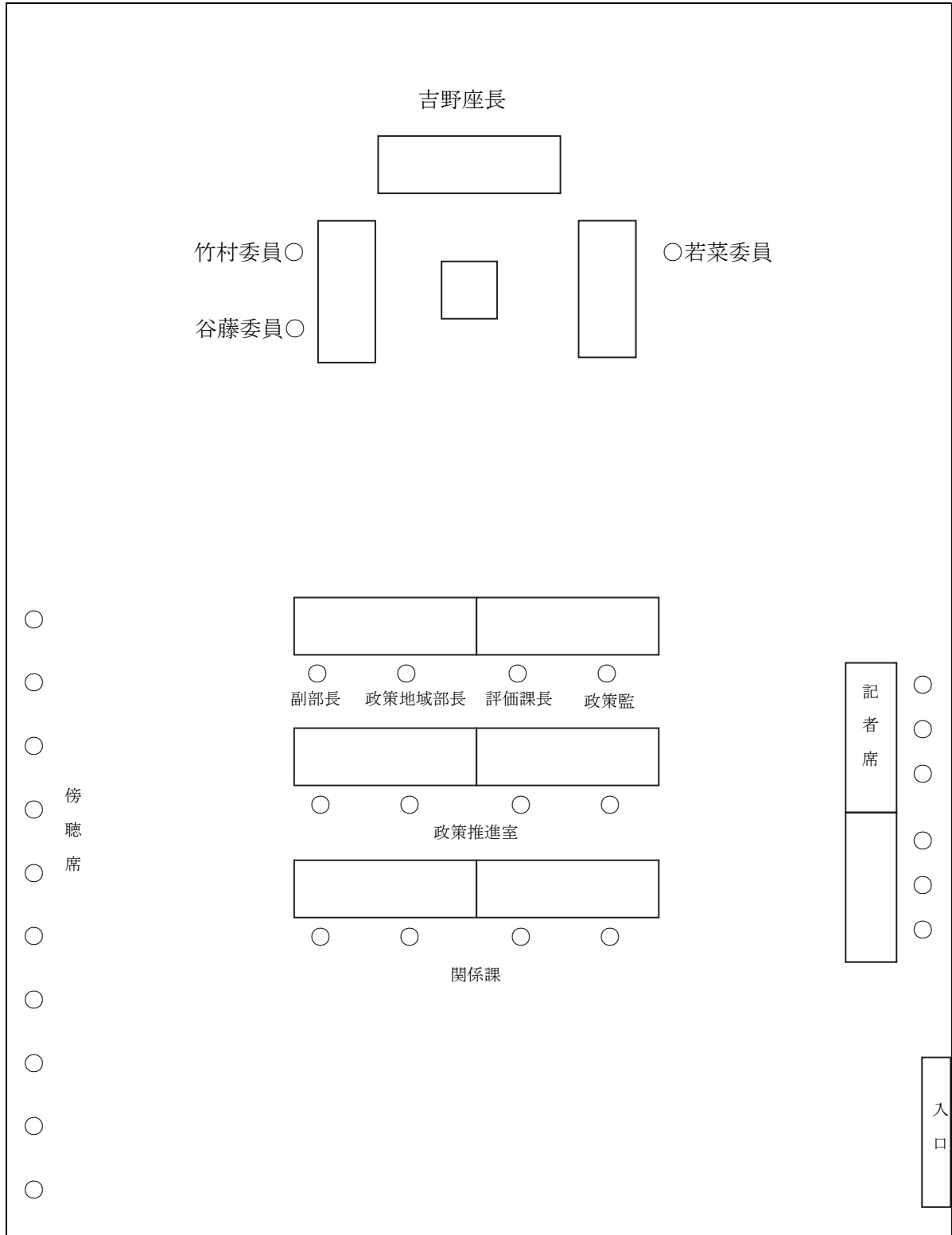
氏名	役職名
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 教授

(敬称略 50音順)

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第5回）座席表

日時：平成29年4月28日（金）10：00～12：00

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス7階学習室1



資料一覧

資料 1	「岩手の幸福に関する指標」研究会 今後のスケジュール（案）	3
資料 2	「岩手の幸福に関する指標」研究会（第 5 回）検討項目資料	5
1	県民参画等の方法の検討について	5
2	具体的な客観的指標の例について	8
資料 3	幸福について考えるワークショップ手引き（案）	9
資料 4	客観的指標の例の一覧	25
資料 5	平成 29 年県の施策に関する県民意識調査結果（速報）	29

「岩手の幸福に関する指標」研究会 今後のスケジュール(案)

資料 1

項目	平成28年度						平成29年度						備考
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降～	
研究会													
開催		○第4回(10/28)		○1/12WS		○3/16WS		●第5回(4/28)	●第6回	●第7回	●第8回		
報告書		【協議事項】 ・中間報告書		【協議事項】 ・今後のスケジュールについて ・県民参画等の方法の検討について ・具体的な客観的指標の例について			【協議事項】 ・H29県民意識調査の分析 結果について		【協議事項】 ・第6回までに 出された意見の整理について ・最終報告書(案)の骨子 について		【協議事項】 ・最終報告書(案)		
中間報告書		○中間報告書											
最終報告書													●最終報告書
総合計画審議会		→ ○第77回		○第78回									●第80回
県民意識調査		総合計画審議会へ「研究会中間報告書」を報告									総合計画審議会へ「研究会最終報告書」を報告		
調査期間			→										
調査結果分析							→						

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第5回） 検討項目資料

1 県民参画等の方法の検討について

(1) 基本的な考え方(案)

- 中間報告を踏まえ、「幸福について考えるワークショップ」を開催したところ、幸福について考えるきっかけとして、効果的だった。
- 今回実施したワークショップの手法を手引きとして取りまとめ、次期総合計画の検討などに当たって、県民の皆様に幸福について考えていただく際に活用することとしてはどうか。

【これまでの研究会での議論】

- 幸福を測ることに意味がある、というスタンスを伝えていくことが重要。
- 学生のサークルや地域の集まりなどで「ちょっと幸福を測ってみよう」というような仕掛けが考えられるのではないか。【第1回研究会】
- ワークショップにおいて、参加者から、それぞれの点数と、その重みづけの数値も選んでもらって、総合点数が出るという「統合方式」を県民運動(ワークショップ)としてやってはどうか。【第2回研究会】
- ワークショップや読本等により、幸福研究の目的について県民に理解していただくとともに、県民の意見を聴き、また、幸福について考えていただく取組を行う必要があります。
【中間報告書 第4章 第4節 県民参画等の考え方】
- 指標を県民の実感があるものとするとともに、県民が自らの幸福について考え、身近な人や地域の幸福についても意識するきっかけとするため、ワークショップ等の方法について検討します。その際、ワークショップで活用できるようなツール(幸福に関するテスト等)も検討します。
- 次期総合計画への反映という観点からは、その策定に併せてワークショップを行うことが考えられますが、検討を深めるため、本研究会においても試行的に実施します。

【中間報告書 第5章 今後の検討課題(2)県民参画等の方法の検討・試行】

(2) ワークショップの実施結果①

学生や一般の方向けのワークショップを実施し、意見をいただいた。

- ・第1回目：平成29年1月12日(木)13:00～15:30 学生(岩手大学、県立大学)18名
 - ・第2回目：平成29年3月16日(木)18:30～21:30 県内外の一般の方12名
- 平成29年1月23日(月)には、県庁の若手職員によるワークショップを実施

ワークショップの主な手順

- (1)進め方の説明
- (2)幸福カルテをつくってみよう
幸福カルテを実施
集計表を作成
集計表をもとにグラフを作成
- (3)幸福カルテの結果を話し合おう
自分のグラフの特徴を紹介
みんなのグラフをもとに意見交換
- (4)岩手県の特徴について共有しよう(スタッフから説明)
- (5)幸福を高めるためにはどうするか考えよう
岩手の良いところ(満足)、悪いところ(不満、不安)を付せんに書き出し、班の中で内容を紹介
「さらに幸福を高めるにはどうすればよいか」を付せんに書き出し、班の中で内容を紹介
「幸福宣言」を書き、班の中で発表
全体発表の発表者、発表する内容を決める
- (6)全体発表
班毎に、「さらに幸福を高めるにはどうすればよいか」と「幸福宣言」を発表



意見交換(一般)



全体発表(学生)

3

(2) ワークショップの実施結果②

○参加者の感想

- ・「幸福カルテ」を最初に行い、自身の幸福について考える方法はとても良い。
- ・幸福について考えるのに効果的だった。
- ・幸福について意識したり考えることから幸福は始まるので、ワークショップは有意義だった。
- ・幸福宣言は、これからこうしたいと考えることができ、とても良い。

○ワークショップの手法に関する主な意見と対応

- ・議論の時間は年代に応じて変えてはどうか。
 - ・短縮バージョン(幸福カルテと意見交換のみなど)があってもいいのではないか。
 - ・幸福カルテの計算が少し大変だった。早見表があってもいいのではないか。
 - ・幸福カルテの傾向が似ている者で班編成することも考えられるのではないか。
 - ・岩手の特徴としては、他の統計データも考えられるのではないか。
 - ・目的をもっとわかりやすく説明した方がよい。
- 以上の意見については、手引きに盛り込んだ。

(その他の意見)

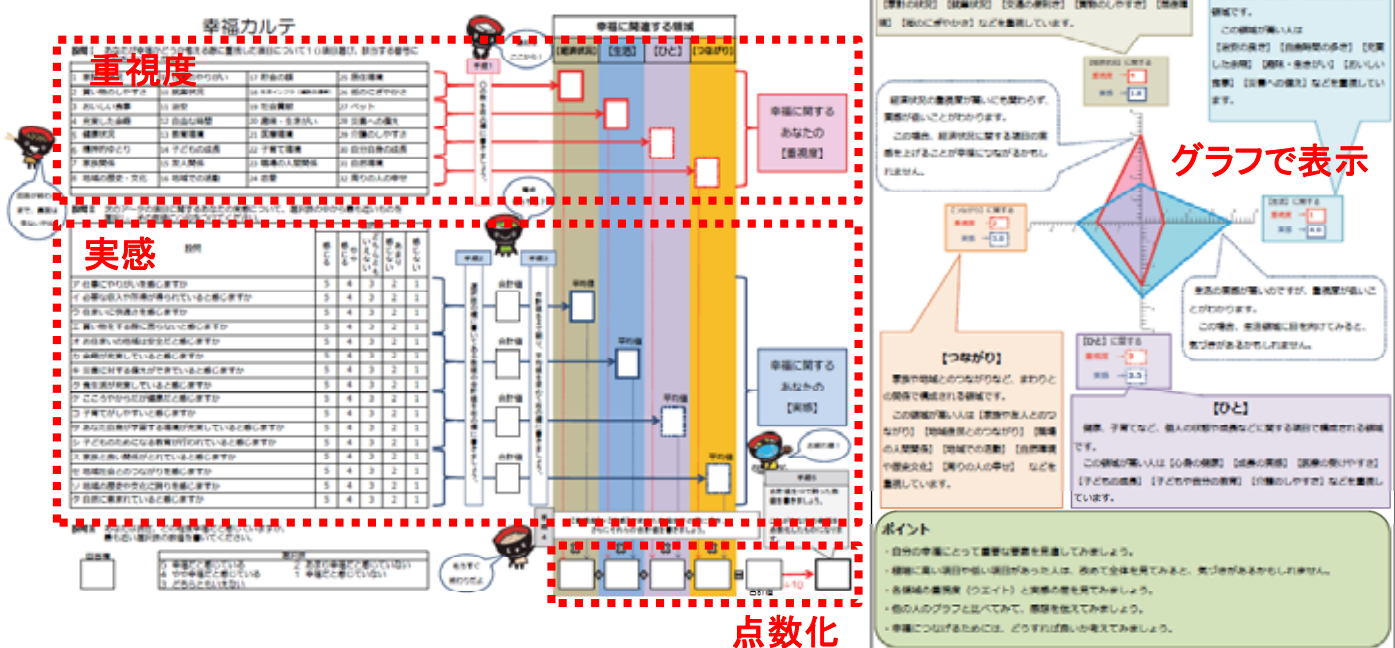
- ・カルテという名称が気になる方がいるかもしれない。
- ・幸福カルテに入る前に、「自分の幸せ」に思いをめぐらせる時間があってもいいかもしれない。
- ・個人の幸せの積み重ねを重視するなら、統計データをあえて出さなくてもいいのではないか。

幸福を考えるきっかけとして、誰でも、どんな場面でもワークショップを行えるよう、いただいた意見を反映させつつ、「ワークショップの手引き」を作成した。資料3参照

(3) 幸福度のカルテの作成

参加者の幸福を見える化するツールとして、「幸福カルテ」を作成した。

- ・幸福について、重視する領域や、その実感が分かるもの
- ・重視度や実感をグラフで表示
- ・幸福を点数化



(4) 講演会の開催結果

「幸福」について県民の方に考えていただくきっかけとして、講演会を開催し、多数の方に参加していただいた。

- 演題 いま、幸福を考える ～「しあわせの国」ブータンを通して見る日本～
- 講師 京都大学 こころの未来研究センター 准教授 内田 由紀子
- 日時 平成29年2月2日(木)11:00～12:00
- 場所 岩手県民会館 会議室



(講演のポイント)

【日本人の幸福】

○日本では、一人だけの幸せではなく、他者との関係の中で築かれる幸せが求められる。

○これまでは幸福は人生に満足とか、生活環境が素晴らしいということで定義されてきたが、自分だけではなく、身近な人も楽しい気持ちでいる、大切な人を自分は幸せにできている、平凡だけれども安定した日々を過ごせている、という幸せもある。

○それがもしかすると私たちがブータンとも共通するところなのではないか。

【つながり】

○人とのつながりを資本とする社会関係資本という考え方がある。様々な信頼関係のネットワークや、持ちつ持たれつの互助関係を資本として生かしていこうという発想。

○もしかすると、こうした社会関係資本を地域の力として生かしていけるのではないかと、つながりを生かしながら、個人の幸せと地域の幸せを結びつけられるかもしれないと考えている。

2 具体的な客観的指標の例について

(1) 客観的指標の例の選定の考え方について

中間報告書で示した客観的指標の項目例毎に、先行研究、先行事例及びいわて県民計画第3期アクションプラン等から、次の視点により指標の具体例を選定してはどうか。

- (1) アウトカムを測定できるデータであること(会議参加者数のような指標はできるだけ選定しない)
- (2) 調査頻度が高く、経年変化を見ることができるデータであること
- (3) 全国比較が可能であり、岩手の強みや弱みを的確に把握することができるデータであること

【評価に当たっての留意点】

評価対象政策について、成果(アウトカム)に着目した目標を設定する。
目標については、定期的・継続的に実績を測定する。

【政策評価の実施に関するガイドライン(総務省行政評価局)】

【全国比較について】

- 客観的指標は、行政として直接関与できるものであり、現状を的確に把握するため、全国との比較ができる指標を設定する。
- 県民意識調査の結果を重視するとともに、岩手の強みや弱みを的確に把握するため、全国と比較して本県が特徴的な傾向を持つ指標を設定する。

【中間報告書 第4章 第1節 指標体系等の考え方】

(2) 客観指標の具体例について

領域	項目例	指標の例
仕事	失業関係	完全失業率
	正規雇用関係	正社員の有効求人倍率
	高齢者の雇用関係	希望者全員が65歳以上まで働ける企業の割合
	生産活動関係	一人当たり県民所得
収入	収入・所得関係	現金給与額
	生活保護関係	生活保護率
居住環境	住宅面積関係	持ち家住宅の延べ面積
	交通の利便性関係	道路舗装率
	情報関係	インターネットの利用率
安全	犯罪数関係	刑法犯認知件数
	交通事故関係	交通事故発生件数
	防災組織関係	自主防災組織の組織率
余暇	趣味・娯楽活動関係	趣味・娯楽の平均時間
	労働時間関係	総実労働時間
健康	寿命関係	健康寿命
	自殺関係	自殺者数
	医療体制関係	医師数
	介護関係	要介護認定を受けていない人の割合

領域	項目例	指標の例
子育て	出生率関係	合計特殊出生率
	乳児医療関係	乳児死亡率
	待機児童関係	待機児童数
教育	学歴関係	大学進学率
	いじめ・不登校関係	不登校児童生徒数
	生涯学習関係	生涯学習センターの利用状況
家族	婚姻関係	婚姻率
	世帯構成関係	三世帯同居率
	親子の会話関係	家の人と学校での出来事について話をする率
コミュニティ	NPO活動関係	NPO法人認証数
	地域行事への参加関係	今住んでいる地域の行事に参加している率
	定住関係	県外からの移住・定住者数
歴史・文化	多文化共生関係	留学生数
	文化財関係	民俗文化財指定件数
	文化関連施設関係	常設映画館数、劇場・音楽館数
自然環境	環境基準関係	大気・水質の環境基準達成率
	森林関係	森林面積割合
	エネルギー関係	再生可能エネルギー自給率

・これら是一例であり、本案で客観指標の項目例を全て網羅しているわけではなく、次期総合計画の検討過程等において、さらに良い指標があれば変更する余地があるもの。

平成 29 年 4 月 28 日

幸福について考えるワークショップ



手引き(案)



手引きの目的

この手引きは、県民の皆さんが幸福について考えるためのきっかけとして、どんな場面でも「幸福について考えるワークショップ」を行っていただけるように、その手順等をまとめたものです。

様々な場面に合わせてアレンジしていただき、ワークショップが、皆さんの幸福のヒントを見つけるきっかけになれば幸いです。

目次

1	趣旨と背景	1
1-1	ワークショップの趣旨	1
1-2	このワークショップが考えられた背景	1
2	ワークショップを始めるにあたって	2
3	ワークショップの手順	3
	ワークショップで使用する資料	5

1. 趣旨と背景

1-1 ワークショップの趣旨

- このワークショップは、自分が「どのようなことに幸福を感じているか」を知り、「もっと幸福を高めるにはどうすればいいか」を考えるきっかけとなることを目的にしています。
- 岩手県のいいところや悪いところなども見つめなおし、幸福のヒントをみんなで探してみましよう。

1-2 このワークショップが考えられた背景

◆岩手県では、「幸福」を、未来を考えるキーワードの1つにしています。

岩手県では、収入などの経済的なゆたかさだけでなく、地域ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさが必要という考え方から、「幸福」を、未来を考えるキーワードの1つにしています。そのため、「岩手の幸福に関する指標」研究会を設置し、幸福の研究を進めてきました。

◆平成 29 年〇月に、「岩手の幸福に関する指標」についての報告書が取りまとめられました。

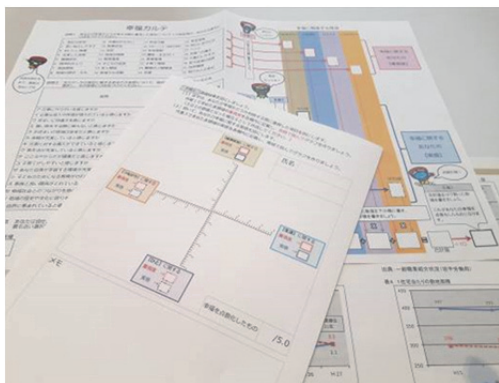
「幸福」といえばボタンが有名ですが、近年は、国際機関や内閣府などでも研究が進められています。また、東京都荒川区や熊本県など「幸福」という考え方を行政に取り入れているところも増えてきています。

研究会では、そういった研究やアンケート調査などを踏まえ、仕事や家庭などの「幸福」に関する要素やそれを政策に活かす方法などについて、平成 29 年〇月に報告書を取りまとめました。

◆「幸福を考えるとところから幸福は始まる」

研究会では、県民の幸福という観点からは、幸福について理論的・体系的に整理するだけではなく、県民一人ひとりが「幸福」について考えることが大切との意見が出されました。

そこで、研究会と岩手県が一緒になって、多くの人の協力をいただきながら、自分の幸福や周りの人の幸福を考えるきっかけとなるワークショップを考えました。



2. ワークショップを始めるにあたって

ワークショップの概要と、事前に準備するものなどは以下の通りです。

概要

1 自分の幸福を「見える化」し、みんなで共有する。

まず、参加者は、手順に従って「幸福カルテ」を作成し、自分の幸福を「見える化」します。

そして、その結果をみんなで共有したり、比較したりすることで、自分の幸福にとって重要な要素や要因が何なのか、改めて考えてみます。

2 幸福を高めるためにはどうするか、みんなで考える。

自分の幸福や周りの人の幸福を高めるためにはどんなことがしたいか、みんなで話し合います。岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところなどを模造紙に書き出しながら、自分にできること、より良い生活につながることを考えてみましょう。

ワークショップを始める前に

○ 人数

「幸福カルテ」は1人でも作れますが、2人以上で取り組んだ方が誰かと比較することで自分の特性をより知ることができます。

また、参加人数が多くなる場合は、5～6人を目安に班に分かれて行いましょう。(班は、幸福カルテの特徴などで分けても盛り上がるかもしれません。)

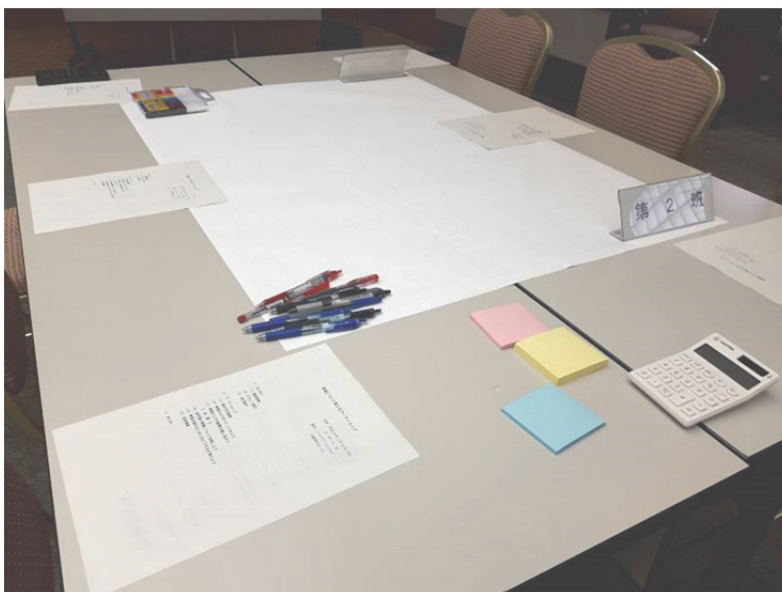
○ 時間

時間は、概ね2時間から3時間を想定していますが、参加者に応じてアレンジしてください。

例えば、前半の「幸福カルテ」の作成と共有だけを行う短縮バージョンなら、1時間程度で行うこともできます。

○ 準備するもの

- ・この手引き (人数分)
- ・幸福カルテ (人数分)
- ・模造紙 (班の数分)
- ・3色の付箋 (人数×10枚程度)
- ・赤と青のペン (人数分)
- ・電卓 (できれば人数分)
- ・ホワイトボード (できれば)



3. ワークショップの手順

※ (1) ~ (5)、(8) だけを行うことで、短縮バージョン (1 時間) のワークショップも可能です。

(1) 開会・趣旨説明 5分/計5分

[ポイント]全体の司会(コーディネーター)を決めておきましょう。

(2) 進め方の説明 10分/計15分

(3) 各班に分かれて自己紹介 5分/計20分

(4) 手順① 自分の幸福カルテをつくってみよう 15分/計35分

- 1) 幸福カルテを記入する。
- 2) 集計する。
- 3) 集計グラフをつくる。

まずは、個人作業です。

[ポイント]幸福カルテに書いてある手順に沿って、グラフまで作ってみましょう。

○ページには計算早見表もあるので、参考にしてください。

(5) 手順② 幸福カルテの結果を見せ合おう・比べてみよう 20分/計55分

- 1) 自分のグラフの特徴をチェックし、理由を考える。
- 2) 自分のグラフの特徴を班で発表して話し合う。

班で話し合います。

[ポイント]グラフの特徴が自分の思っていたものと違っていたら、その理由を考えてみましょう。

**幸福の感じ方は人それぞれですので、点数より、グラフの特徴に着目してください。
ニックネームを付け合っても盛り上がるかもしれません。**

誰かが読み上げます。

(6) 岩手県の数値的な特徴を知ろう 10分/計65分

[ポイント]一度視点を自分の置かれている環境や周りの人に移してみましょう。

P7~11に参考データを載せていますが、参加者などに応じてアレンジしましょう。

(7) 「幸福を高めるためには何ができるか」の模造紙をつくろう 30分/計95分

- 1) 各自で「自分や周りの人の幸福を高めるために、どんなことがしたいか？」を

付せんに書き出す（1人5枚以上！）。

- 2) 上記1) で出したアイデアを実現するに当たって、岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところを色の違う付せんに書き出す（思いつく範囲で！）。
- 3) 付箋を1人ずつ読み上げながら、模造紙に貼る。
- 4) 似ているものをまとめ、見出しを付ける。
- 5) 「さらに幸福を高めるためには何ができるか」を付箋に書き、模造紙に貼る。

再び班作業

[ポイント] 普段思っていることや幸福カルテをやって気づいたことを何でも書き出しましょう。

4)は、1)で書いたものを参考にしてもいいですし、個人的なことでも構いません。

(8) 「私の幸福宣言」を書いてみよう

5分/計100分

幸福カルテやみんなで話した内容を思い返しなが、「私の幸福宣言」(P12)を書く。

[ポイント] 今日からできそうなこと、できたら面白そうなことなどを書いてみましょう。

自分だけでなく、周りの人を幸せにするための宣言でも構いません。

(9) 全体発表

15分/計115分

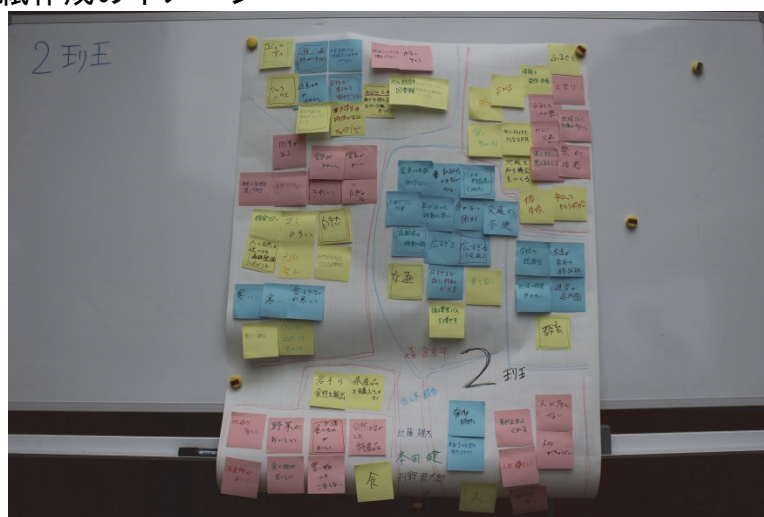
班ごとに発表者を決め、2～3分程度で(7)で作成した模造紙や「私の幸福宣言」を発表する。

(10) まとめ

5分/計120分

司会（コーディネーター）が全体の総括を行う。

(7) の模造紙作成のイメージ



ワークショップで使用する資料

資料1 幸福カルテ

資料2 岩手県の特徴（統計データ（参考））

資料3 私の幸福宣言

幸福カルテ

設問 I あなたが幸福かどうか考える際に重視した項目について10項目選び、該当する番号に○印をつけてください。

1 家計の状況	9 仕事のやりがい	17 貯金の額	25 居住環境
2 買い物のしやすさ	10 就業状況	18 生活インフラ（道路交通等）	26 街のにぎやかさ
3 おいしい食事	11 治安	19 社会貢献	27 ペット
4 充実した余暇	12 自由な時間	20 趣味・生きがい	28 災害への備え
5 健康状況	13 教育環境	21 医療環境	29 介護のしやすさ
6 精神的ゆとり	14 子どもの成長	22 子育て環境	30 自分自身の成長
7 家族関係	15 友人関係	23 職場の人間関係	31 自然環境
8 地域の歴史・文化	16 地域での活動	24 恋愛	32 周りの人の幸せ



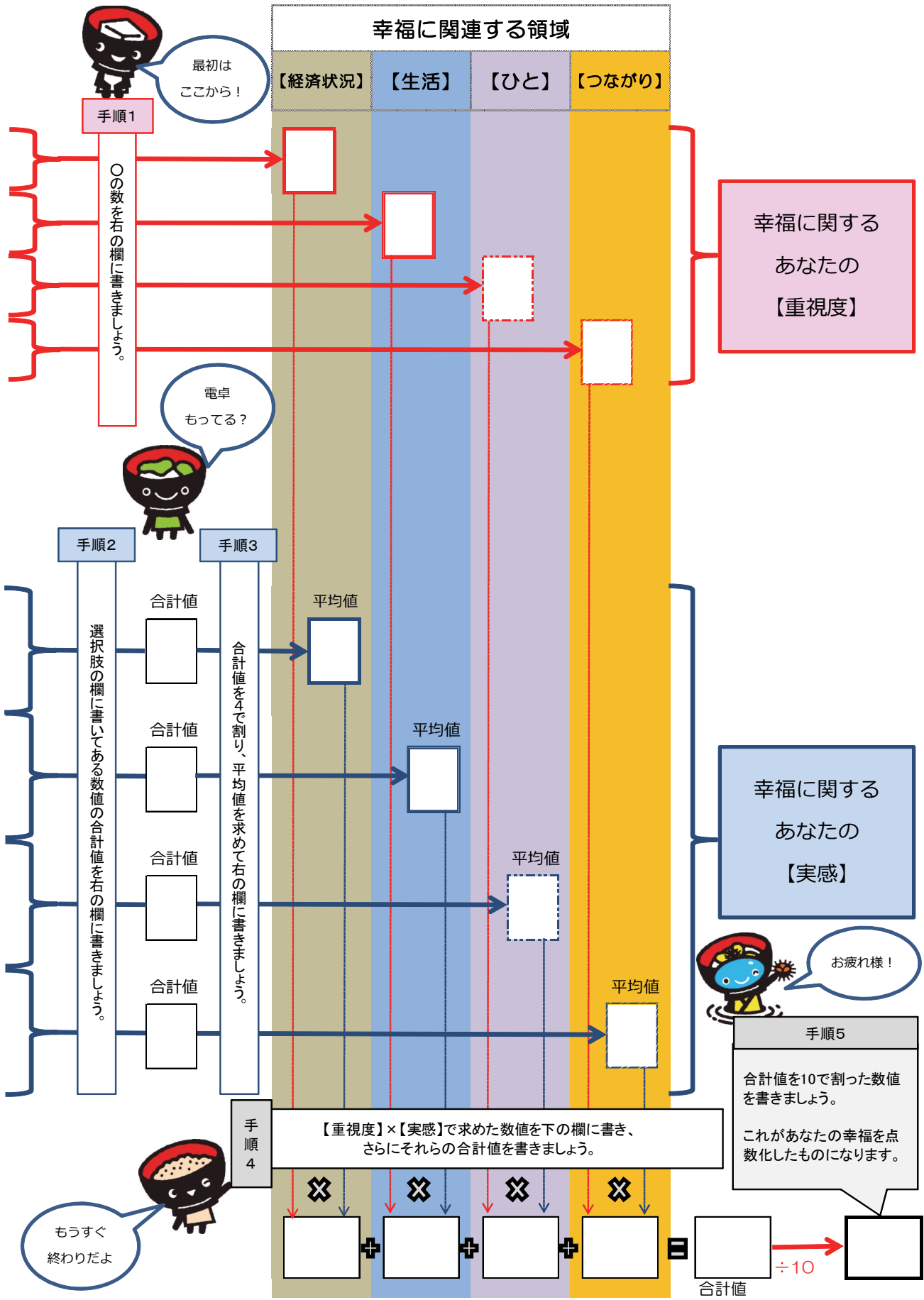
設問 II 次のア～タの項目に関するあなたの実感について、選択肢の中から最も近いものを選択し、その数値に○印をつけてください。

設問	選択肢				
	感じる	感じる やや	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない
ア 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1
イ 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1
ウ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1
エ 買い物をする際に困らないと感じますか	5	4	3	2	1
オ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1
カ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
キ 災害に対する備えができていると感じますか	5	4	3	2	1
ク 食生活が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
ケ こころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1
コ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1
サ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
シ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1
ス 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1
セ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1
ソ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1
タ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1

設問 III あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。最も近い選択肢の数値を書いてください。

回答欄

選択肢	
5 幸福だと感じている	2 あまり幸福だと感じていない
4 やや幸福だと感じている	1 幸福だと感じていない
3 どちらともいえない	



手順6 調査結果を図にしましょう。

- (1) まずは、あなたが幸福かどうか判断する際に重視した項目を図にします。
 作業1で求めた各領域の**重視度**を各欄内に記載し、**赤線で結んで**グラフを作りましょう。
 (5以上の数値となった場合5として作成してください。)
- (2) 続いて、あなたの幸福に関する**実感**を図にします。
 作業3で求めた各領域の**実感**を各欄内に記載し、**青線で結んで**グラフを作りましょう。

<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【経済状況】に関する</p> <p>重視度 → <input style="border: 2px solid red; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> <p>実感 → <input style="border: 2px solid blue; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>氏名</p> </div> </div>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【つながり】に関する</p> <p>重視度 → <input style="border: 2px solid red; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> <p>実感 → <input style="border: 2px solid blue; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【生活】に関する</p> <p>重視度 → <input style="border: 2px solid red; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> <p>実感 → <input style="border: 2px solid blue; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> </div> </div>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【ひと】に関する</p> <p>重視度 → <input style="border: 2px dashed red; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> <p>実感 → <input style="border: 2px dashed blue; width: 40px; height: 20px;" type="text"/></p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>幸福を点数化したもの</p> <p style="text-align: right; font-size: 1.2em;">/5.0</p> </div> </div>

メモ

グラフの見方

【経済状況】

収入、仕事、生活の便利さなど、経済的な項目で構成される領域です。

この領域が高い人は

【家計の状況】【就業状況】【交通の便利さ】【買物のしやすさ】【居住環境】
【街のにぎやかさ】などを重視しています。

【生活】

安全、余暇、趣味など、金銭では表しにくい生活の状態に関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は

【治安の良さ】【自由時間の多さ】【充実した余暇】【趣味・生きがい】【おいしい食事】
【災害への備え】などを重視しています。

経済状況の重視度が高いにも関わらず、実感が低いことがわかります。

この場合、経済状況に関する項目の実感を上げることが幸福につながるかもしれません。

【経済状況】に関する

重視度 → 4

実感 → 1.8

【つながり】に関する

重視度 → 2

実感 → 3.0

【生活】に関する

重視度 → 1

実感 → 4.0

生活の実感が高いのですが、重視度が低いことがわかります。

この場合、生活領域に目を向けてみると、気づきがあるかもしれません。

【つながり】

家族や地域とのつながりなど、まわりとの関係で構成される領域です。

この領域が高い人は【家族や友人とのつながり】【地域住民とのつながり】【職場の人間関係】【地域での活動】【自然環境や歴史文化】
【周りの人の幸せ】などを重視しています。

【ひと】に関する

重視度 → 3

実感 → 3.5

【ひと】

健康、子育てなど、個人の状態や成長などに関する項目で構成される領域です。
この領域が高い人は【心身の健康】【成長の実感】【医療の受けやすさ】【子どもの成長】
【子どもや自分の教育】【介護のしやすさ】などを重視しています。

ポイント

- ・自分の幸福にとって重要な要素を見直してみましょう。
- ・極端に高い項目や低い項目があった人は、改めて全体を見てみると、気づきがあるかもしれません。
- ・各領域の重視度（ウエイト）と実感の差を見てみましょう。
- ・他の人のグラフと比べてみて、感想を伝えてみましょう。
- ・幸福につなげるためには、どうすれば良いか考えてみましょう。



幸福カルテ 早見表



重視度

0	1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---	---

合計値

4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

平均値

1
1.25
1.5
1.75
2
2.25
2.5
2.75
3
3.25
3.5
3.75
4
4.25
4.5
4.75
5

0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	1.3	2.5	3.8	5	6.3	7.5	8.8	10
0	1.5	3	4.5	6	7.5	9	10.5	12
0	1.8	3.5	5.3	7	8.8	10.5	12.3	14
0	2	4	6	8	10	12	14	16
0	2.3	4.5	6.8	9	11.3	13.5	15.8	18
0	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20
0	2.8	5.5	8.3	11	13.8	16.5	19.3	22
0	3	6	9	12	15	18	21	24
0	3.3	6.5	9.8	13	16.3	19.5	22.8	26
0	3.5	7	10.5	14	17.5	21	24.5	28
0	3.8	7.5	11.3	15	18.8	22.5	26.3	30
0	4	8	12	16	20	24	28	32
0	4.3	8.5	12.8	17	21.3	25.5	29.8	34
0	4.5	9	13.5	18	22.5	27	31.5	36
0	4.8	9.5	14.3	19	23.8	28.5	33.3	38
0	5	10	15	20	25	30	35	40

(例) 平均値が1.75で、重視度が3の場合、手順4の数値は5.3となります。

重視度

0	1	2	3
---	---	---	---

平均値

1
1.25
1.5
1.75
2

0	1	2	3
0	1.3	2.5	3.8
0	1.5	3	4.5
0	1.8	3.5	5.3
0	2	4	6

①手順2で書いた合計値の右側にスライドすると・・・

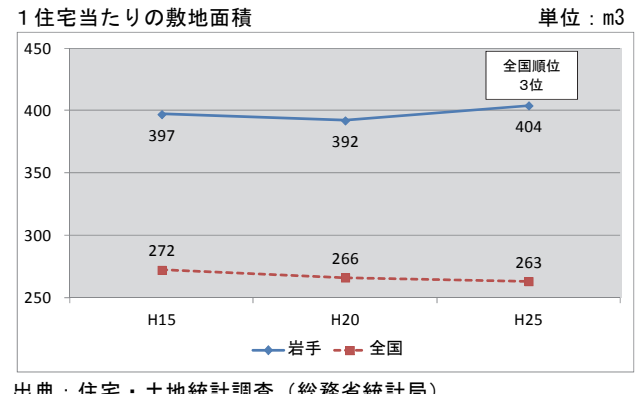
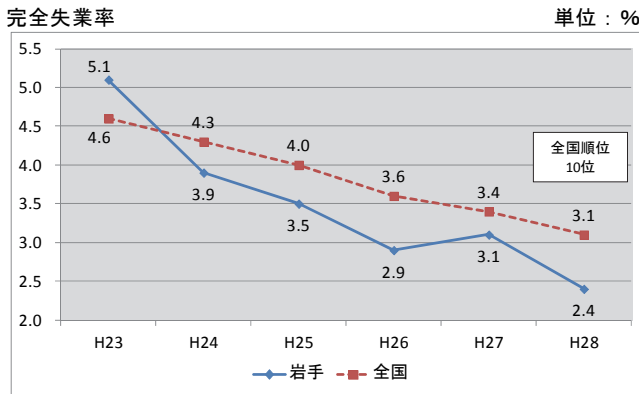
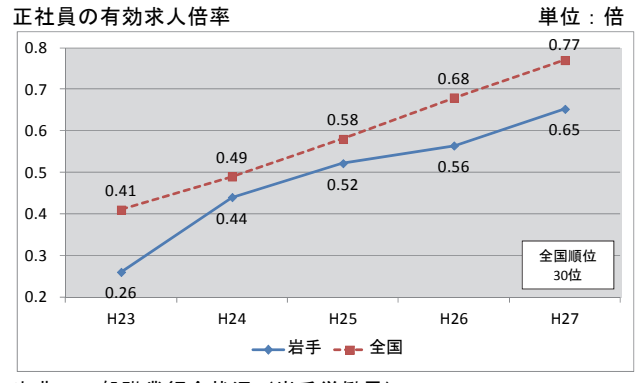
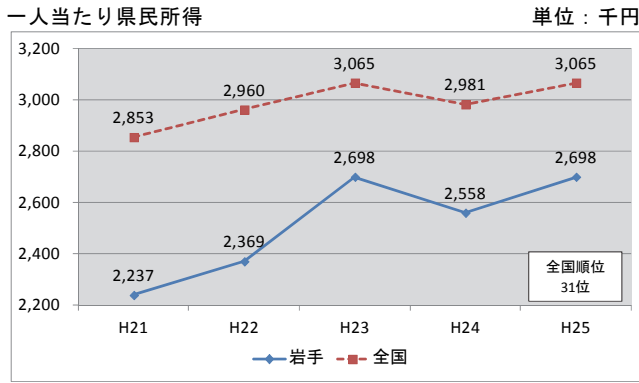
②手順3の平均値が出ます！

③手順3で出した平均値と、手順1で出した重視度が重なるマスを見ると、手順4の数値がわかります！

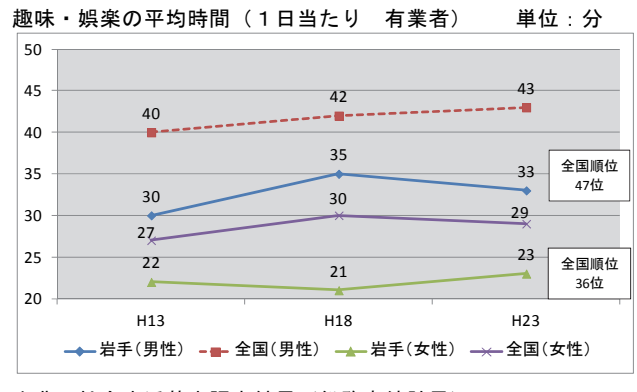
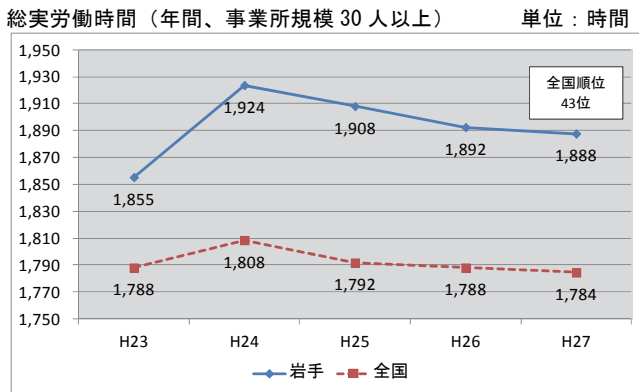
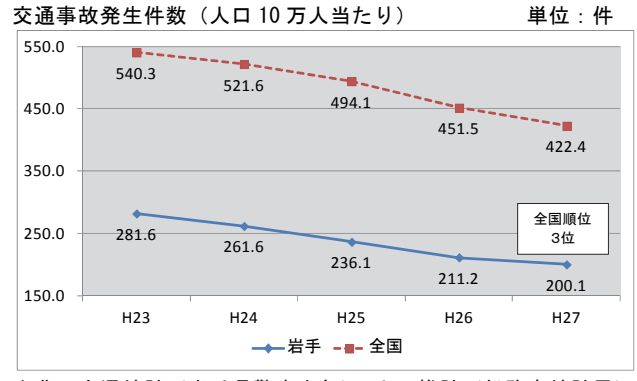
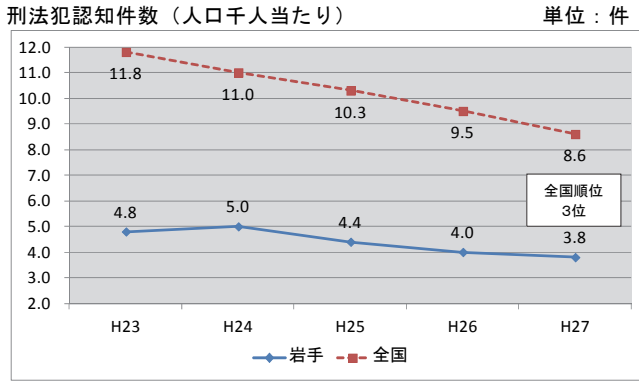


資料2 岩手県の特徴（統計データ（参考））

【経済状況】に関する統計データ



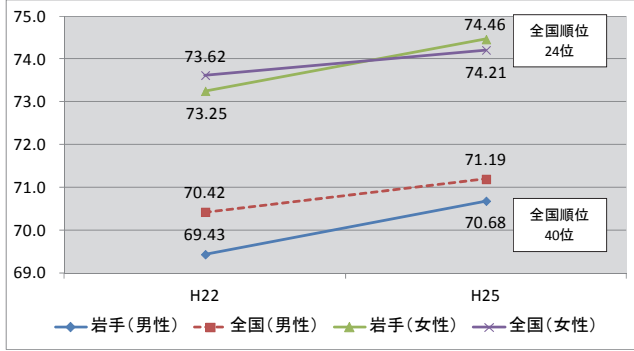
【生活】に関する統計データ



【ひと】に関する統計データ

健康寿命

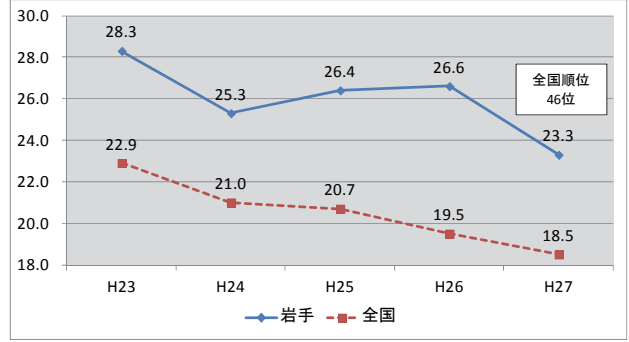
単位：年



出典：健康寿命の指標化に関する研究（健康日本21（第二次）等の健康寿命の検討）（厚生労働科学研究費補助金）

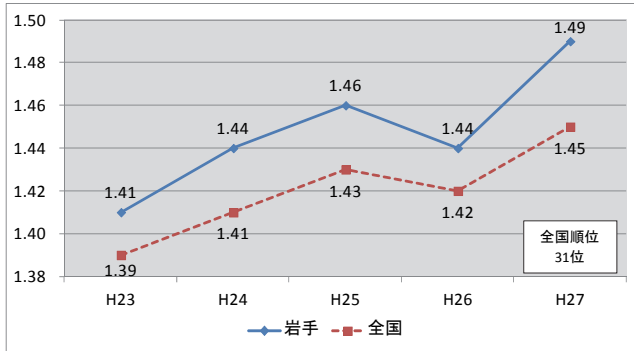
自殺者数（人口10万人当たり）

単位：人



出典：人口動態統計（厚生労働省）

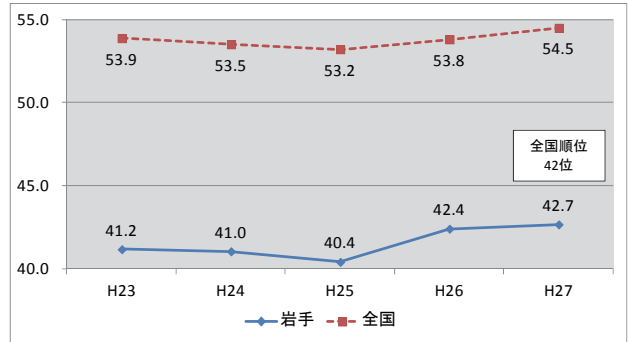
合計特殊出生率



出典：人口動態統計（厚生労働省）

大学等進学率

単位：%

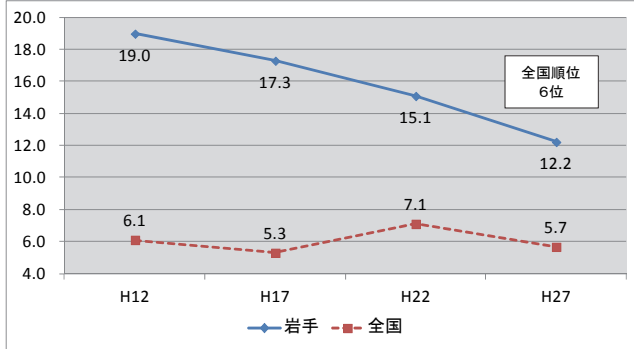


出典：学校基本調査（文部科学省）

【つながり】に関する統計データ

三世帯同居率

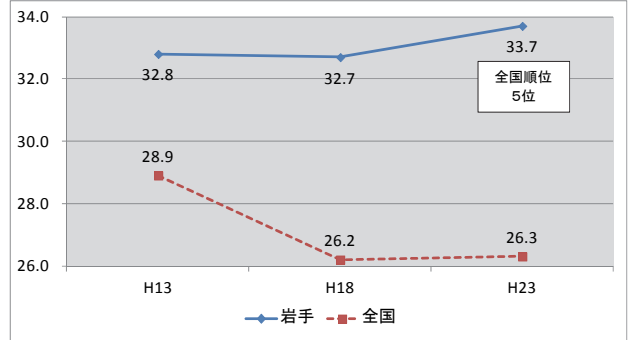
単位：%



出典：国勢調査（総務省統計局）

ボランティア活動の年間行動者率

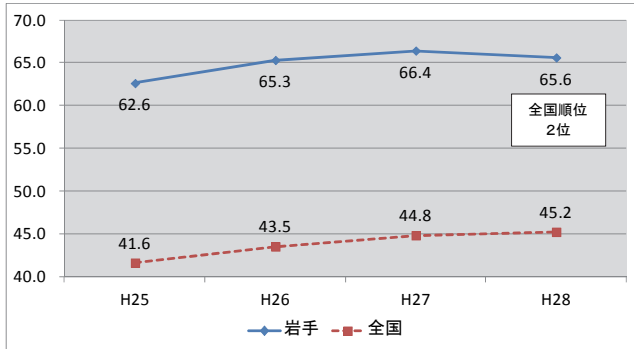
単位：%



出典：社会生活基本調査結果（総務省統計局）

今住んでいる地域の行事に参加している率（中学生）

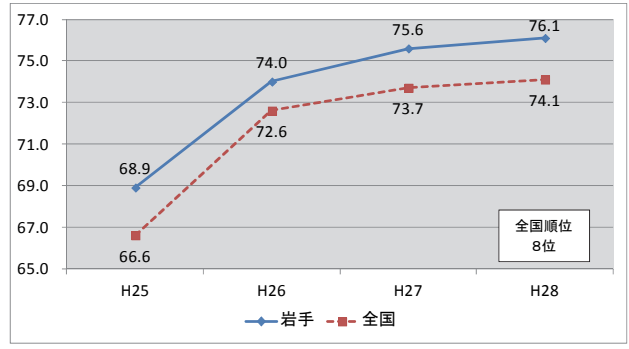
単位：%



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

家の人と学校での出来事について話をする率（中学生）

単位：%



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

私は、 _____ の

幸福を高める

ために

をします

客観的指標の具体例

中間報告書で示した客観的指標の項目例ごとに、先行研究、先行事例及びいわて県民計画第3期アクションプラン等から、次の視点により指標の具体例を選定した。

- (1) アウトカムを測定できるデータであること(会議参加者数のような指標はできるだけ選定しない)
- (2) 調査頻度が高く、経年変化を見ることができるデータであること
- (3) 全国比較が可能であり、岩手の強みや弱みを的確に把握することができるデータであること

これらは一例であり、本案で客観指標の項目例を全て網羅しているわけではなく、次期総合計画の検討過程等において、さらに良い指標があれば変更する余地があるもの。

領域	客観的指標の項目例	対象	指標の具体例							
			No	指標名	単位	出典	直近の実績	備考	調査頻度	
経済状況	仕事	失業関係	成人	1	完全失業率	%	労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局)	2.4 (H28)	○10位	毎年
		正規雇用関係 求人関係	成人	2	正社員の有効求人倍率	倍	一般職業紹介状況(岩手労働局)	0.65 (H27)	30位	毎年
		女性の雇用関係		3	労働者総数に占める女性の割合	%	賃金構造基本統計調査(厚生労働省)	38.5 (H28)	12位	毎年
		高齢者の雇用関係	高齢者	4	希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合	%	高齢者の雇用に関する統計情報(岩手労働局)	86.5 (H28)	○1位	毎年
		(新規)障がい者の雇用関係		5	障がい者の雇用率	%	岩手県における障害者雇用状況の集計結果(岩手労働局)	2.07 (H28)	18位	毎年
		(変更)生産活動関係		6	一人当たり県民所得	千円	県民経済計算年報(内閣府経済社会総合研究所)	2,698 (H25)	31位	毎年
				7	製造品出荷額等(従業者一人当たり)	百万円	工業統計情報(経済産業省)	27.5 (H26)	●39位	毎年
				8	農業産出額	億円	生産農業所得統計(農林水産省)	2,494 (H27)	11位	毎年
				9	林業産出額	千万円	生産林業所得統計(農林水産省)	2,297 (H27)	○5位	毎年
			10	漁業産出額	億円	漁業産出額(農林水産省)	384 (H27)	12位	毎年	
	収入	収入・所得関係		11	現金給与額	千円	賃金構造基本統計調査(厚生労働省)	235.9 (H28)	●46位	毎年
		生活保護関係		12	生活保護率(人口千人当たり)	%	被保護者調査(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)	11.1 (H26)	18位	毎年
	居住環境	住宅面積関係		13	1住宅当たりの敷地面積	m ²	住宅・土地統計調査(総務省統計局)	404 (H25)	○3位	5年に1回
				14	持ち家住宅の延べ面積(1住宅当たり)	m ²	住宅・土地統計調査(総務省統計局)	154.6 (H25)	○9位	5年に1回
		都市の緑化関係		15	都市公園面積(人口1人当たり)	m ²	都市公園整備水準調書(国土交通省都市局)	10.96 (H26)	23位	毎年
		交通の利便性関係		16	道路舗装率	%	道路統計年報(国土交通省)	62.5 (H27)	●47位	毎年
				17	最寄りの駅まで2km以上かつバス停まで1km以上の距離がある住宅の割合	%	住宅・土地統計調査(総務省統計局)	7.8 (H25)	34位	5年に1回
		情報関係		18	インターネットの利用率	%	通信利用動向調査(総務省)	72.8 (H27)	●46位	毎年

※実績は直近のものを示しており、カッコ内にいつ時点のデータか示した。

全国比較ができるデータについては、幸福感に良い影響があると考えられる順に並べ、その順位を備考欄に示した。また、全国順位が上位10位までのものには○を、下位10位までのものには●を付した。

領域	客観的指標の項目例	対象	具体例							
			No	指標名	単位	出典	直近の実績	備考	調査頻度	
生活	安全		19	刑法犯認知件数(人口千人当たり)	件	犯罪統計(警視庁)、人口推計(総務省統計局)	3.8(H27)	○3位	毎年	
			20	交通事故発生件数(人口10万人当たり)	件	交通統計(岩手県警察本部)、人口推計(総務省統計局)	200.1(H27)	○3位	毎年	
			21	自主防災組織の組織率	%	消防白書(総務省消防庁)	84.6(H27)	23位	毎年	
			22	火災出火率(人口1万人当たり)	%	1～12月における火災の状況(総務省消防庁)	3.7(H27)	34位	毎年	
			23	消費者生活相談解決割合	%	県民生活センター調べ	96.5(H27)	全国比較できるデータ無し	毎年	
	余暇	趣味・娯楽活動関係		24	趣味・娯楽の平均時間(1日当たり有業者 男性)	分	社会生活基本調査結果(総務省統計局)	33(H23)	●47位	5年に1回
				25	趣味・娯楽の平均時間(1日当たり有業者 女性)	分	社会生活基本調査結果(総務省統計局)	23(H23)	36位	5年に1回
			26	総実労働時間(年間、事業所規模30人以上)	時間	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)	1887.6(H27)	●43位	毎年	
			27	3次活動時間(自由時間)(週全体)	分	社会生活基本調査結果(総務省統計局)	371(H23)	●46位	5年に1回	

領域	客観的指標の項目例	対象	具体例												
			No	指標名	単位	出典	直近の実績	備考	調査頻度						
ひと	健康	高齢者	28	健康寿命(男性)	年	健康寿命の指標化に関する研究(健康日本21(第二次)等の健康寿命の検討)(厚生労働科学研究費補助金)	70.68(H25)	●40位	不定期						
			29	健康寿命(女性)	年	健康寿命の指標化に関する研究(健康日本21(第二次)等の健康寿命の検討)(厚生労働科学研究費補助金)	74.46(H25)	24位	不定期						
			30	自殺者数(人口10万人当たり)	人	人口動態統計(厚生労働省)	23.3(H27)	●46位	毎年						
			31	朝食を毎日食べている生徒の率(中学生)	%	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	95.7(H28)	○5位	毎年						
			32	スポーツ実施率(週1回以上)	%	県民のスポーツ実施状況に関する調査(スポーツ健康課)	51.4(H27)	全国比較できるデータ無し	県:毎年 国:5年に1回						
			33	医師数(人口10万人当たり)	人	医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)	192(H26)	●42位	2年に1回						
			34	要介護認定を受けていない人の割合(65歳以上)	%	介護保険事業状況報告(厚生労働省)	80.8(H26)	31位	毎年						
			35	介護老人福祉施設定員数(65歳人口千人当たり)	人	介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)	16.4(H27)	13位	毎年						
	子育て			36	(新規)障害者福祉関係	36	障がい者支援施設等定員数(人口千人当たり)	人	社会福祉施設等調査報告(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)	2.51(H27)	○9位	毎年			
				37	出生率関係	37	合計特殊出生率		人口動態統計(厚生労働省)	1.49(H27)	31位	毎年			
				38	乳児医療関係	若者	38	乳児死亡率(出生数千人当たり)	%	人口動態統計(厚生労働省)	3.1(H27)	●46位	毎年		
				39	待機児童関係	成人	39	待機児童数	人	保育所等関連状況調査(厚生労働省)	128(H27)	25位	毎年		
				40	児童虐待関係	若者	40	児童虐待相談対応件数(20歳未満人口千人当たり)	件	福祉行政報告例(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)	280.5(H27)	18位	毎年		
			教育			41	学歴関係	41	大学等進学率	%	学校基本調査(文部科学省)	42.7(H27)	●42位	毎年	
						42	いじめ・不登校関係	若者	42	不登校児童生徒数(小中学校生徒千人当たり)	人	児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査	10.4(H27)	○7位	毎年
						43	学力関係	若者	43	全国学力テストの正答率(中学生国語)	%	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	71(H28)	26位	毎年
						44		全国学力テストの正答率(中学生数学)	%	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	49.1(H28)	●45位	毎年		
	45	思いやり関係			若者	45	人が困っているときは、進んで助けている率(中学生)	%	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	86.6(H28)	○4位	毎年			
	46	子どもの体力関係			若者	46	体力・運動能力調査の総合評価がA～C段階(平均以上)の児童生徒の割合	%	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)	79.9(H28)	○9位	毎年			
	47	生涯学習関係			成人・高齢者	47	生涯学習センターの利用状況(人口千人当たり)	人	社会教育調査(文部科学省)、人口推計(総務省統計局)	87.7(H26)	32位	3年に1回			

領域	客観的指標の項目例	対象	具体例							
			No	指標名	単位	出典	直近の実績	備考	調査頻度	
つながり	家族	成人・高齢者	48	婚姻率(人口千人当たり)	‰	人口動態統計(厚生労働省)	4.10 (H27)	●44位	毎年	
		成人	49	三世同居率	%	国勢調査(総務省統計局)	12.2 (H27)	○6位	5年に1回	
		成人	50	6歳未満の子供がいる夫の家事時間(週全体)	分	社会生活基本調査結果(総務省統計局)	31 (H23)	○1位	5年に1回	
		若者	51	家の人と学校での出来事について話をする率(中学生)	%	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	76.1 (H28)	○8位	毎年	
	コミュニティ	NPO・ボランティア活動関係		52	ボランティア活動の年間行動者率	%	社会生活基本調査結果(総務省統計局)	33.7 (H23)	○5位	5年に1回
				53	NPO法人認証数(人口10万人当たり)	法人	内閣府調査、人口推計(総務省統計局)	36.4 (H27)	29位	毎年
		地域行事への参加関係		54	今住んでいる地域の行事に参加している率(中学生)	%	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	65.6 (H28)	○2位	毎年
		募金活動関係		55	赤い羽根共同募金平均寄付額(一人当たり)	円	赤い羽根共同募金ホームページ	290 (H27)	○2位	毎年
		高齢者の社会活動関係	高齢者	56	老人クラブ会員数(65歳以上人口千人当たり)	人	福祉行政報告例(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)	196.5 (H27)	26位	毎年
		相談相手関係		57	民生委員(児童委員)数(人口10万人当たり)	人	福祉行政業務報告(厚生労働省)	2.88 (H27)	○6位	毎年
		定住関係		58	県外からの移住・定住者数	人	岩手県政策地域部調査	1,387 (H27)	全国比較できるデータ無し	毎年
	歴史・文化	多文化共生関係		59	出国者数(人口千人当たり)	人	出入国管理統計(法務省)、人口推計(総務省統計局)	32.5 (H27)	●45位	毎年
				60	留学生数(人口10万人当たり)	人	外国人留学生在籍状況調査((独)日本学生支援機構)、人口推計(総務省統計局)	25.2 (H27)	●45位	毎年
		文化財関係		61	民俗文化財指定件数(累計)	件	文化財指定等の件数(文化庁)	16 (H28)	○7位	毎年
		文化関連施設関係		62	常設映画館数(人口100万人当たり)	館	衛生行政報告例(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)	14.1 (H27)	○10位	毎年
			63	劇場・音楽館数(人口100万人当たり)	館	社会教育調査(文部科学省)、人口推計(総務省統計局)	21.1 (H27)	18位	3年に1回	
	自然環境	環境基準関係		64	大気の大気汚染物質等環境基準達成率	%	大気汚染状況(環境省)	100 (H27)	○1位	毎年
				65	公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	公共用水域測定結果(岩手県)	97.3 (H27)	全国順位不明(全国91.1%)	毎年
		リサイクル関係		66	ごみのリサイクル率	%	一般廃棄物処理実態調査(環境省)	17.4 (H26)	22位	毎年
		ごみの排出量関係		67	一人一日当たりごみ排出量	グラム	一般廃棄物処理実態調査(環境省)	945 (H26)	20位	毎年
		森林関係		68	森林面積割合	%	農林業センサス[農山村地域調査](農林水産省)	74.9 (H26)	○10位	5年に1回
エネルギー関係			69	再生可能エネルギー自給率	%	持続地帯報告書(千葉大学、認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)	15.5 (H27)	16位	毎年	

平成29年4月27日
政策地域部調査統計課

平成29年県の施策に関する県民意識調査結果(速報)

1 調査の目的

「いわて県民計画」に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすることを目的とする。

2 調査の概要

- ① 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ② 調査対象者数 5,000人
- ③ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ④ 調査方法 設問票によるアンケート調査(郵送法)
- ⑤ 調査時期 平成29年1～2月
- ⑥ 調査項目
 - ア 生活全般の満足度
 - イ 「いわて県民計画」の7つの政策に関連する46項目に係る重要度、満足度について
 - ウ 県民の普段の行動について(医療機関の役割分担認知度等)
 - エ 「いわて県民計画」の進め方等についての意見(幸福度)
- ⑦ 有効回収率 68.4%(3,422人/5,000人)
- ⑧ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	1,450	(42.4)
女性	1,907	(55.7)
不明	65	(1.9)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	976	(28.5)
県南広域振興圏	1,039	(30.4)
沿岸広域振興圏	821	(24.0)
県北広域振興圏	586	(17.1)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	47	(1.4)
20～29歳	203	(5.9)
30～39歳	330	(9.7)
40～49歳	506	(14.8)
50～59歳	617	(18.0)
60～69歳	838	(24.5)
70歳以上	822	(24.0)
不明	59	(1.7)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	276	(8.1)
家族従業者	149	(4.4)
会社役員・団体役員	190	(5.5)
常用雇用者	965	(28.2)
臨時雇用者	421	(12.3)
学生	67	(2.0)
専業主婦(主夫)	449	(13.1)
無職	712	(20.8)
その他	117	(3.4)
不明	76	(2.2)

()内は%

(注) 1 小数点第1位未満四捨五入の関係から、内訳の計が100%にならない場合があります。
2 選挙人名簿の登録年齢に合わせ、調査対象年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げています。

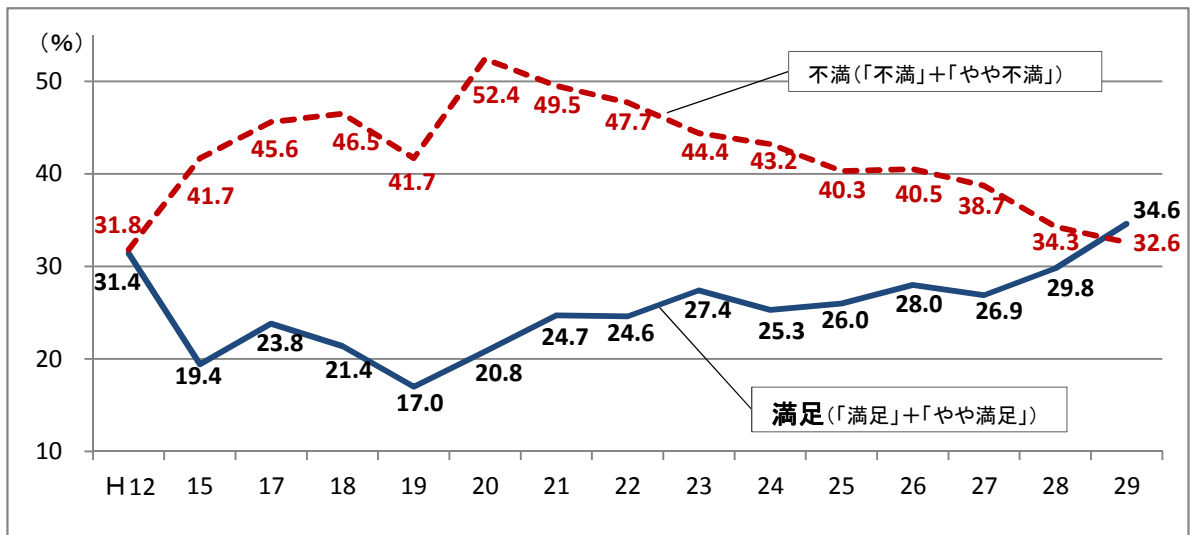
■ 調査結果の概要 ■

問1 あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

満足の割合は過去最高、満足が不満を上回る

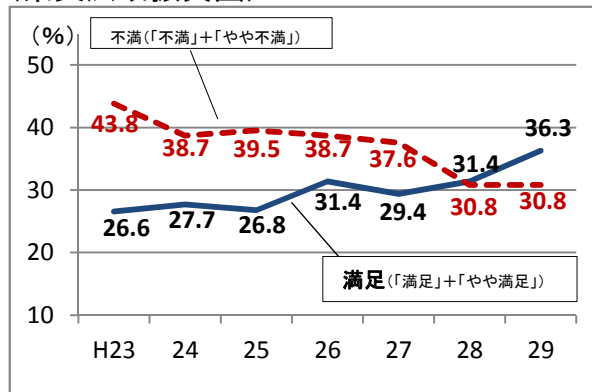
- 県計では、満足(「満足」+「やや満足」)の割合が34.6%と平成12年の調査開始以来過去最高となっており、不満(「不満」+「やや不満」)の割合32.6%を2.0ポイント上回っている。
- また、調査対象が20歳以上だった前回と比較すると、満足の割合は29.8%から4.8ポイント上昇し、不満の割合は34.3%から1.7ポイント低下し、満足上昇度が不満低下度を上回っている。
- いずれの広域振興圏でも、満足が上昇して過去最高となっている一方、不満が低下しており、特に、県央では5.5ポイント、県南では0.7ポイント満足が不満を上回っている。

(県計)

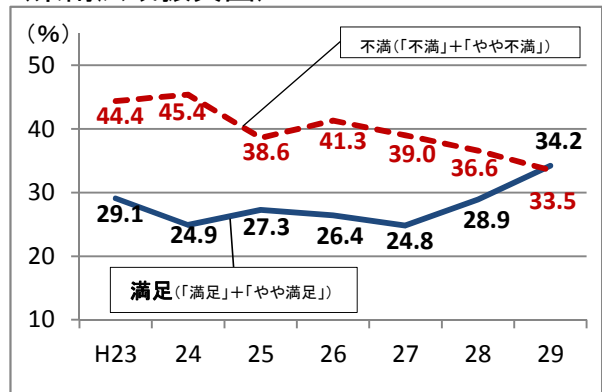


注)今回(平成29年)調査から、抽出に使用する選挙人名簿登録年齢に合わせ、調査対象年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げた。

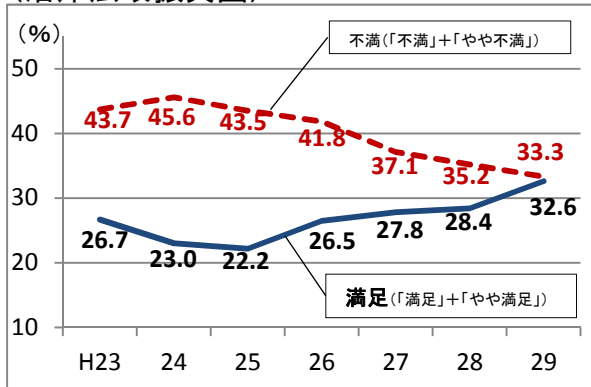
(県央広域振興圏)



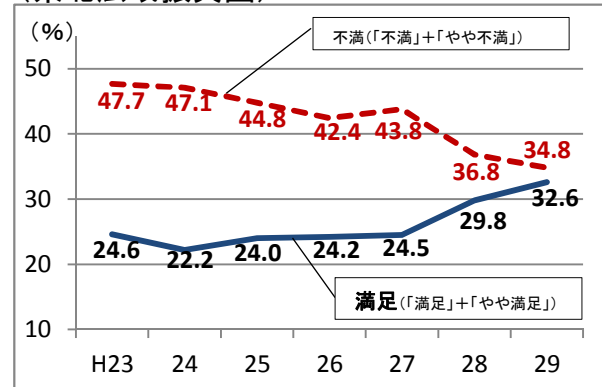
(県南広域振興圏)



(沿岸広域振興圏)



(県北広域振興圏)



問2 あなたの暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要と考えますか。

あなたの現在の暮らしからみて、調査項目の状態についてどれくらい満足していますか。

【重要度】

- 重要度の高い項目は、「適切な医療体制」、「交通事故の少ない社会づくり」、「高齢者や障がい者に安心な地域づくり」となっている。
- 一方、「海外での県産品の販路拡大」、「外国人も暮らしやすい地域社会」、「地域や学校での文化芸術活動」などの項目が重要度が低くなっている。

重要度が高い項目

順位	(参考) 28年順位	7つの政策	番号	項目
1	1	③	14	適切な医療体制
2	3	④	20	交通事故の少ない社会づくり
3	2	③	17	高齢者や障がい者に安心な地域づくり
4	5	④	19	犯罪への不安の少ない社会づくり
5	6	⑦	42	災害に強く安心して暮らせる県土

重要度が低い項目

順位	(参考) 28年順位	7つの政策	番号	項目
46	46	①	7	海外での県産品の販路拡大
45	45	⑤	36	外国人も暮らしやすい地域社会
44	44	⑤	35	地域や学校での文化芸術活動
43	41	②	12	活力ある農山漁村の形成
42	43	④	24	市民活動へ参加しやすい社会

※項目は設問文を要約して記載している。(以下、同様)

【満足度】

- 満足度の高い項目は、「ごみ減量やリサイクルの定着」、「県出身スポーツ選手の活躍」、「犯罪への不安の少ない社会づくり」となっている。
- 一方、「安定した就職環境」、「商店街のにぎわい」、「農林水産業の担い手確保」などの項目が満足度が低くなっている。

満足度が高い項目

順位	(参考) 28年順位	7つの政策	番号	項目
1	1	⑥	39	ごみ減量やリサイクルの定着
2	2	⑤	37	県出身スポーツ選手の活躍
3	5	④	19	犯罪への不安の少ない社会づくり
4	4	⑥	40	自然環境を大切に生活
5	9	④	22	購入する食品の安全性に不安を感じない社会

満足度が低い項目

順位	(参考) 28年順位	7つの政策	番号	項目
46	46	①	8	安定した就職環境
45	44	①	5	商店街のにぎわい
44	45	②	9	農林水産業の担い手確保
43	43	①	2	次世代を担う産業人材育成
42	42	①	6	中小企業の経営力の向上

【ニーズ度】

- ニーズ度の高い項目は、「安定した就職環境」、「高齢者や障がい者に安心な地域づくり」、「安心な子育て環境整備」となっている。
- 一方、「県出身スポーツ選手の活躍」、「地域や学校での文化芸術活動」、「外国人も暮らしやすい地域社会」などの項目がニーズ度が低くなっている。

ニーズ度が高い項目

順位	(参考) 28年順位	7つの政策	番号	項目
1	1	①	8	安定した就職環境
2	2	③	17	高齢者や障がい者に安心な地域づくり
3	3	③	16	安心な子育て環境整備
4	6	①	5	商店街のにぎわい
5	4	②	9	農林水産業の担い手確保

ニーズ度が低い項目

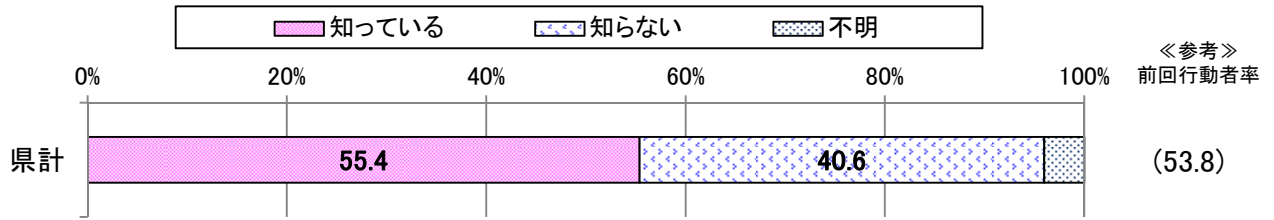
順位	(参考) 28年順位	7つの政策	番号	項目
46	45	⑤	37	県出身スポーツ選手の活躍
45	46	⑤	35	地域や学校での文化芸術活動
44	44	⑤	36	外国人も暮らしやすい地域社会
43	41	①	7	海外での県産品の販路拡大
42	42	④	24	市民活動へ参加しやすい社会

7つの政策

- ①: 産業・雇用～「産業創造県いわて」の実現～
- ②: 農林水産業～「食と緑の創造県いわて」の実現～
- ③: 医療・子育て・福祉～「共に生きるいわて」の実現～
- ④: 安全・安心～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
- ⑤: 教育・文化～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
- ⑥: 環境～「環境王国いわて」の実現～
- ⑦: 社会資本・公共交通・情報基盤～「いわてを支える基盤」の実現～

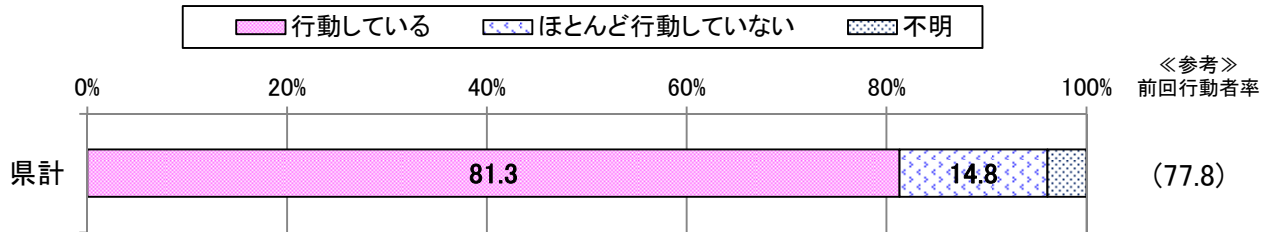
問3-1 大きな病院と診療所(開業医)の役割分担について知っていますか。

○ 大きな病院と診療所(開業医)の役割分担について知っている人の割合は55.4%となっている。

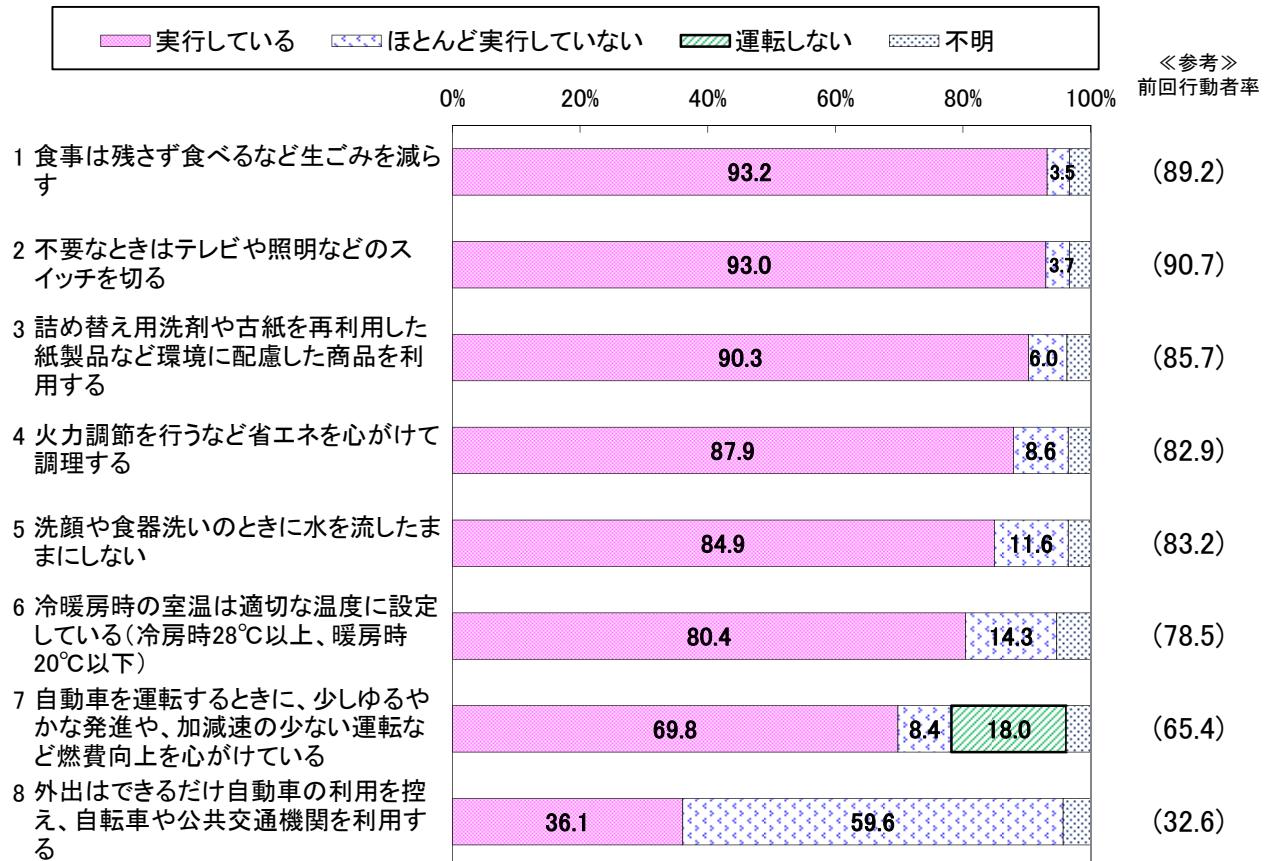


問3-2 地球温暖化防止のため、普段どのような行動に努めていますか。

○ 地球温暖化防止のための行動に努めている人の割合は、各調査項目の平均で81.3%となっている。

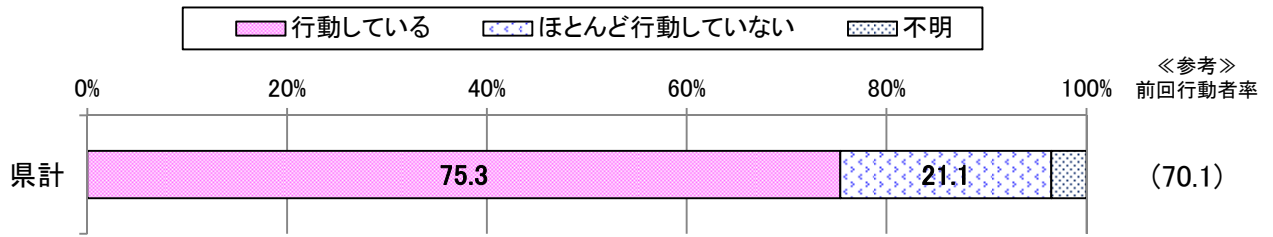


○ 行動の内容は、「食事は残さず食べるなど生ごみを減らす」が93.2%と最も多く、次いで「不要なときはテレビや照明などのスイッチを切る」が93.0%、「詰め替え用洗剤や古紙を再利用した紙製品など環境に配慮した商品を利用する」が90.3%となっている。

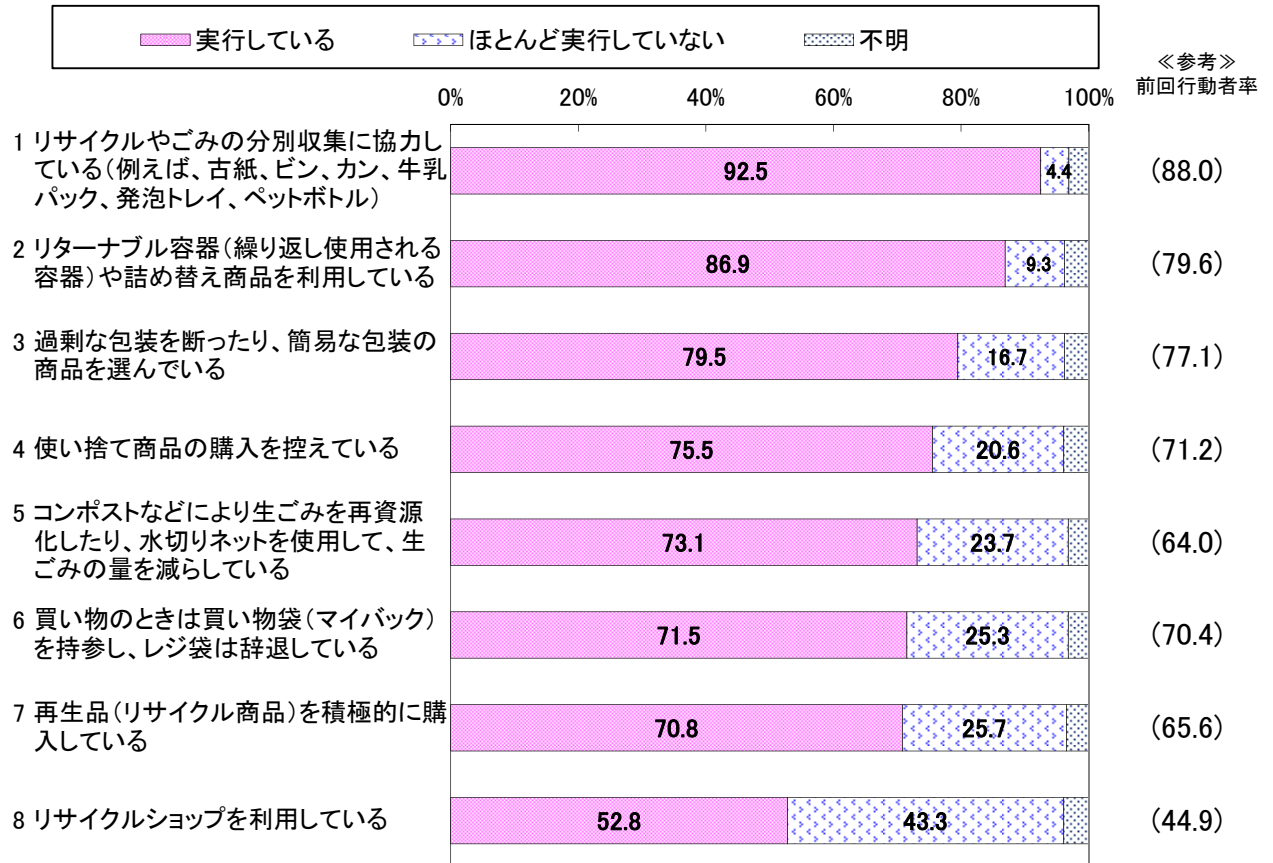


問3-3 ごみの減量化のため、普段どのような行動に努めていますか。

○ ごみの減量化などのための行動に努めている人の割合は、各調査項目の平均で75.3%となっている。



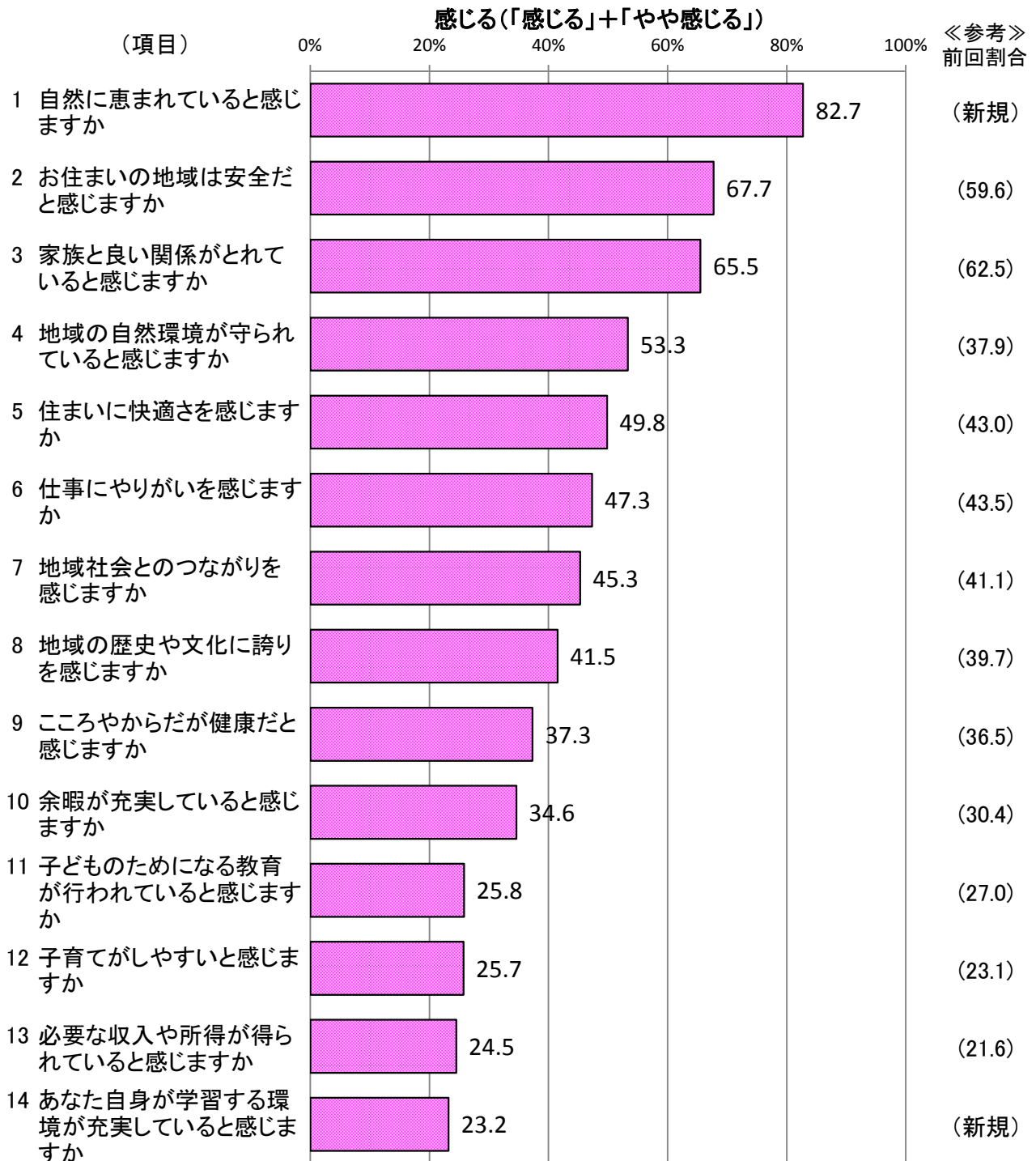
○ 行動の内容は、「リサイクルやごみの分別収集に協力している(例えば、古紙、ビン、カン、牛乳パック、発泡トレイ、ペットボトル)」が92.5%と最も多く、次いで「リターナブル容器(繰り返し使用される容器)や詰め替え商品を利用している」が86.9%、「過剰な包装を断ったり、簡易な包装の商品を選んでいる」が79.5%となっている。



問4 県では、「私たちが実現していきたい岩手の未来」を創っていくため、「希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。希望郷いわての実現のため、あなたの「幸福」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問4-1 現在のあなたの実感について、おたずねします。

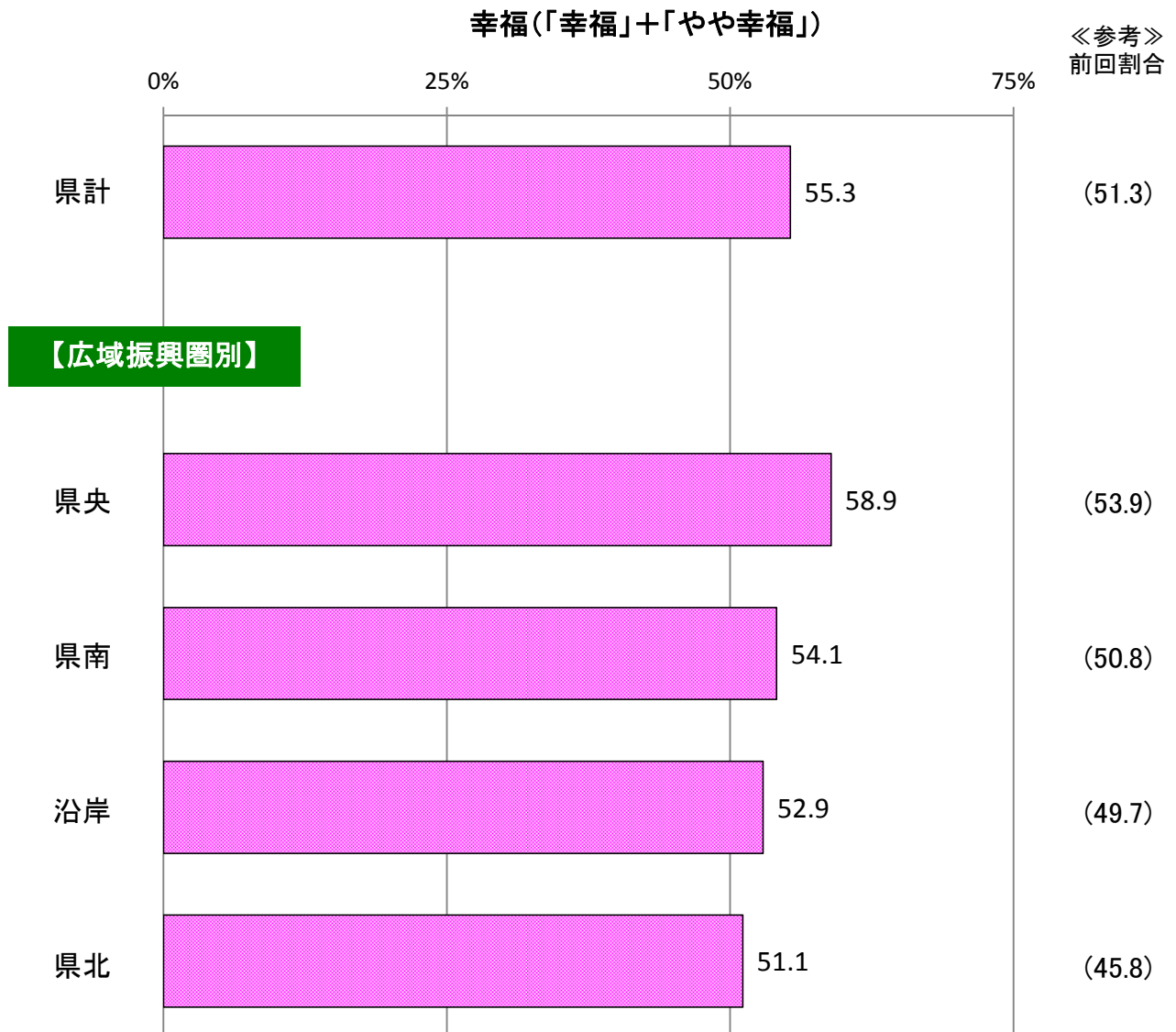
○ 感じる(「感じる」+「やや感じる」)の割合が高いのは、「自然に恵まれていると感じますか」の82.7%、「お住まいの地域は安全だと感じますか」の67.7%、「家族と良い関係がとれていると感じますか」の65.5%となっている。



問4-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

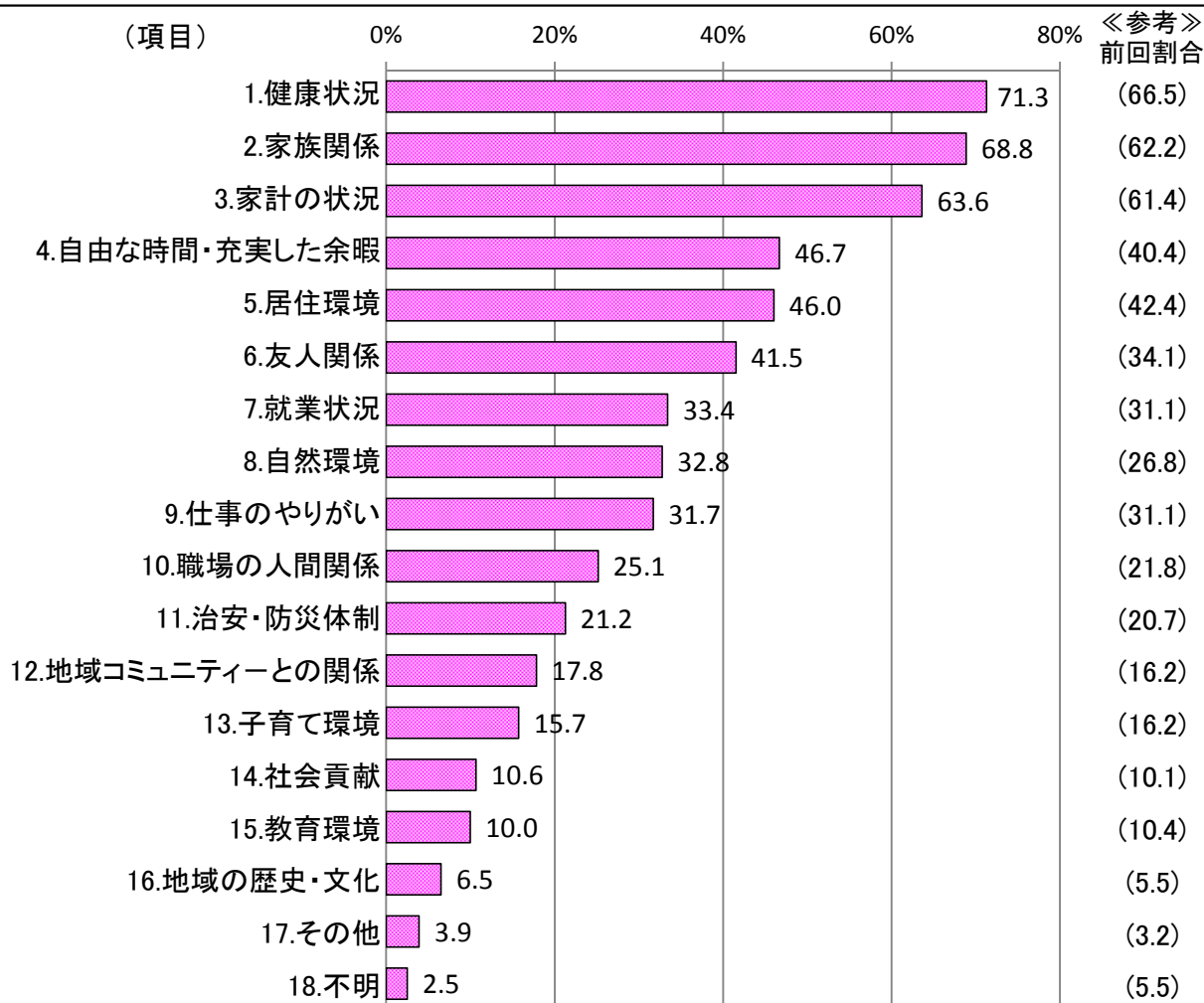
幸福が約55% (55.3%)、全ての広域振興圏で50%以上

- 県計では、幸福の割合は55.3%となっており、前回と比較すると4.0ポイント上昇している。
- 広域振興圏別に前回と比較すると、幸福の割合は県央では5.0ポイント、県南では3.3ポイント、沿岸では3.2ポイント、県北では5.3ポイント上昇し、全ての広域振興圏で幸福が50%以上となっている。



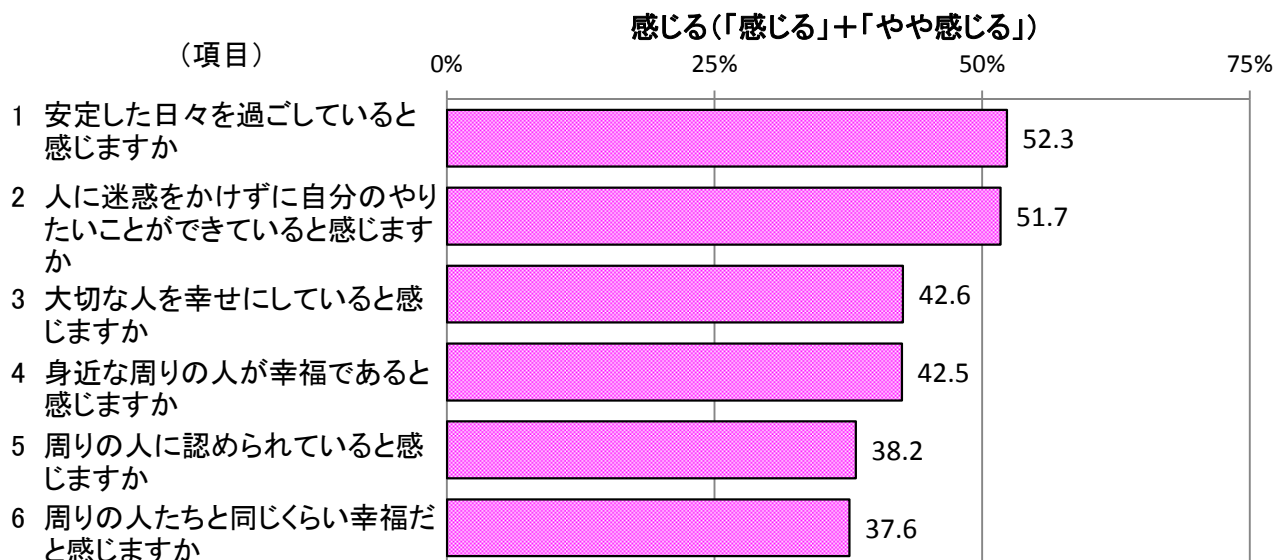
問4-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。

○ 幸福かどうか判断する際に重視すると回答した人の割合が高いのは、「健康状況」の71.3%、「家族関係」の68.8%となっている。



問4-4 あなたの周りの人の幸福等について、あなた自身の実感をおたずねします。

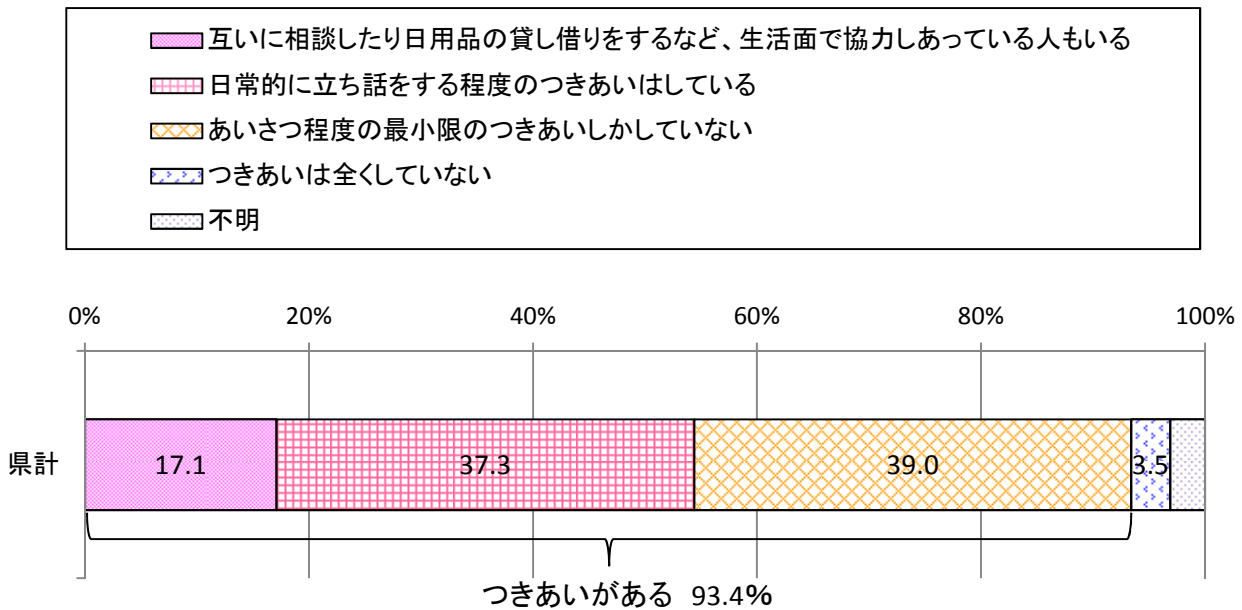
○ 感じる(「感じる」+「やや感じる」)の割合が高いのは、「安定した日々を過ごしていると感じますか」の52.3%、「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか」の51.7%となっている。



問5 県では、幸福に関連する項目として、「つきあい・交流」、「信頼」、「社会参加」といった「つながり」に注目しており、ここからはあなたの「つながり」に関する行動や考え方等について伺います。

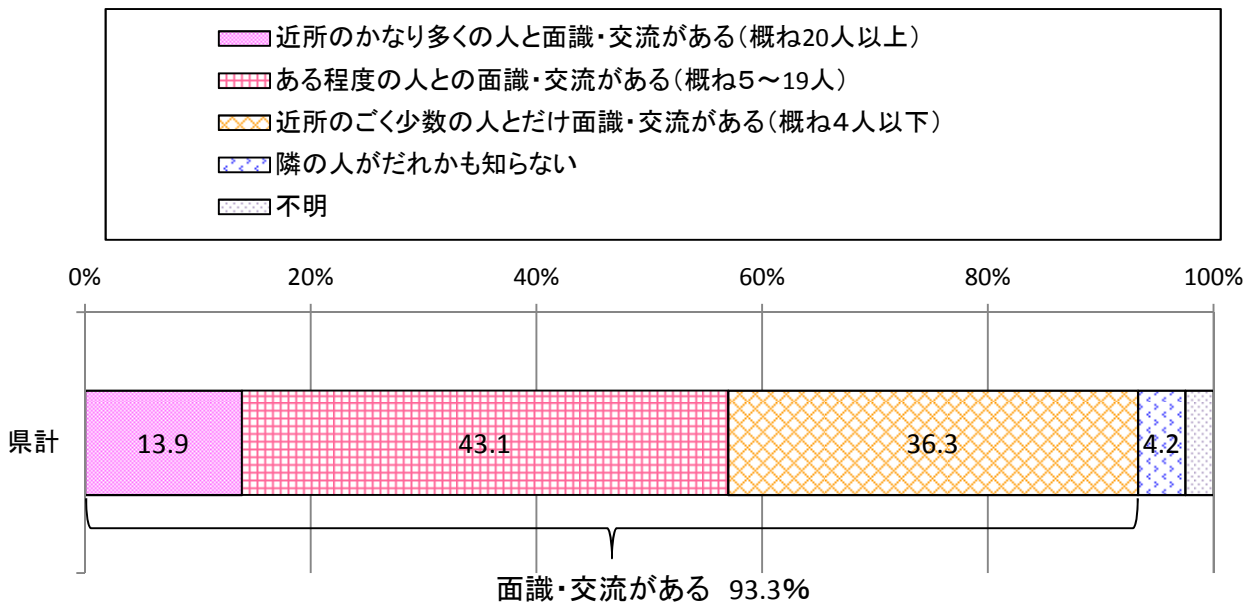
問5-1 あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。

- ご近所つきあいがある（「生活面での協力」、「立ち話程度やあいさつ程度のつきあい」）と回答した人の割合は、93.4%となっている。
- 一方、「つきあいは全くしていない」は3.5%となっている。



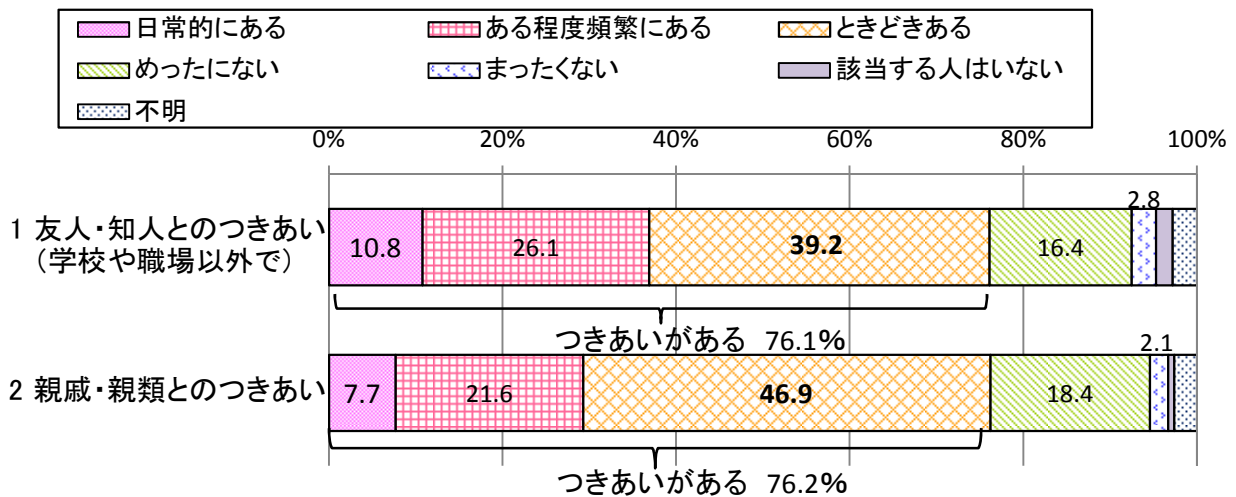
問5-2 つきあっているご近所の方の数は、どのくらいですか。

- 面識・交流がある（「近所のかなり多くの人」、「ある程度の人」、「近所のごく少数の人とだけ」）と回答した人の割合は、93.3%となっている。
- 一方、「隣の人がだれかも知らない」は4.2%となっている。



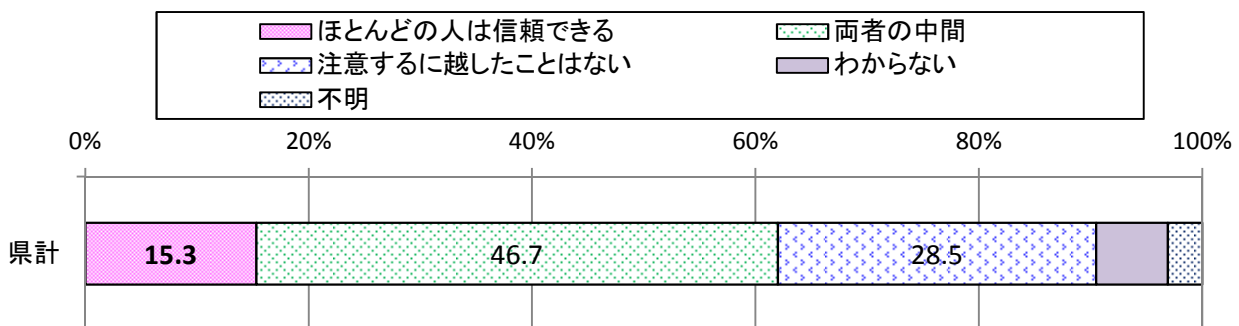
問5-3 あなたは、①友人・知人、②親戚・親類とどのようなおつきあいをされていますか。

- 友人・知人等とのつきあいがある(「日常的にある」+「ある程度頻繁にある」+「ときどきある」)と回答した者の割合は、「友人・知人」では76.1%、「親戚・親類」では76.2%となっている。
- 最も割合の高い付き合いの程度は、「友人・知人」では「ときどきある」の39.2%、「親戚・親類」では「ときどきある」の46.9%となっている。



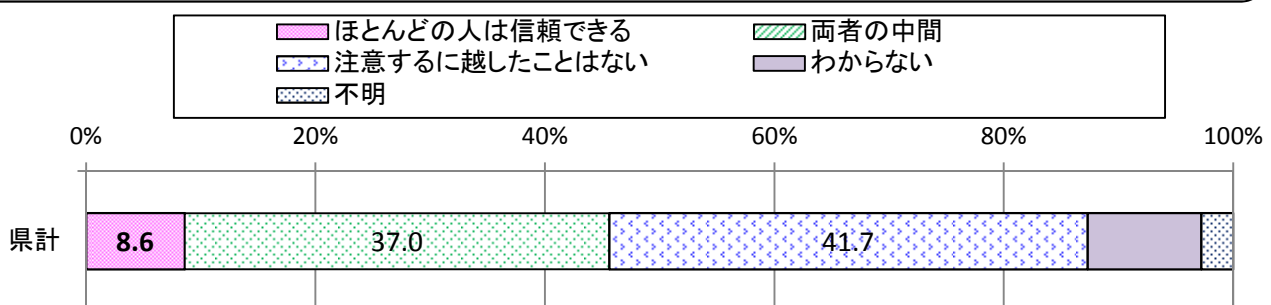
問5-4 あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。

- 一般的に、「ほとんどの人は信頼できる」と考える者の割合は、15.3%となっており、「注意するに越したことはない」と考える者の割合28.5%をを13.2ポイント下回っている。



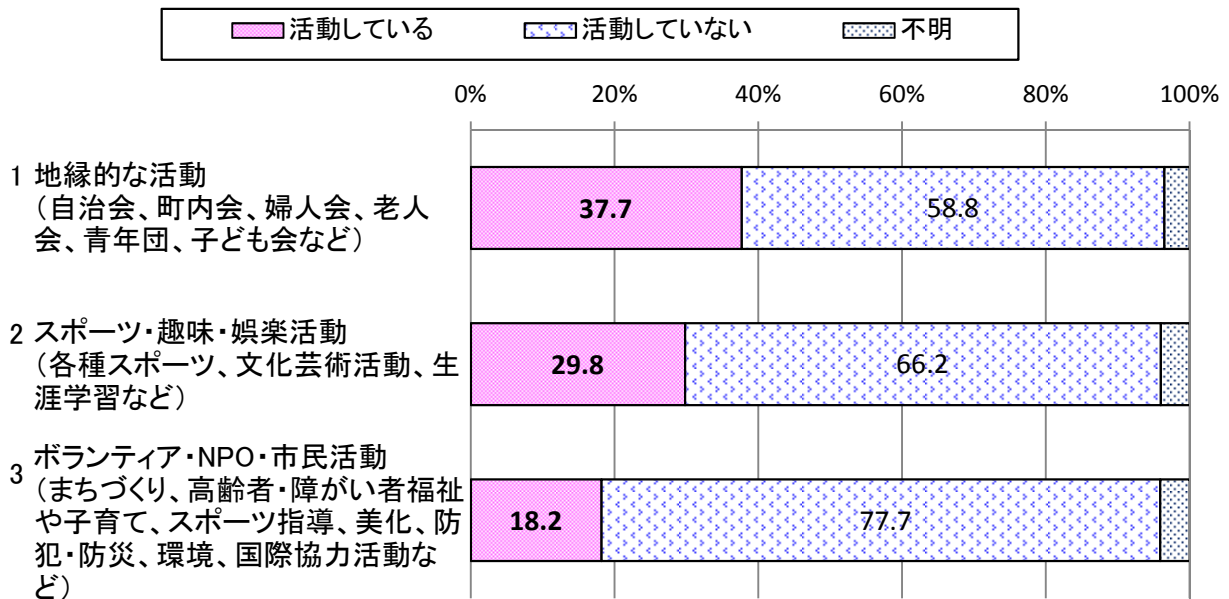
問5-5 「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、信頼できると思いますか。

- 「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、「ほとんどの人は信頼できる」と考える者の割合は、8.6%となっており、「注意するに越したことはない」と考える者の割合41.7%を33.1ポイント下回っている。



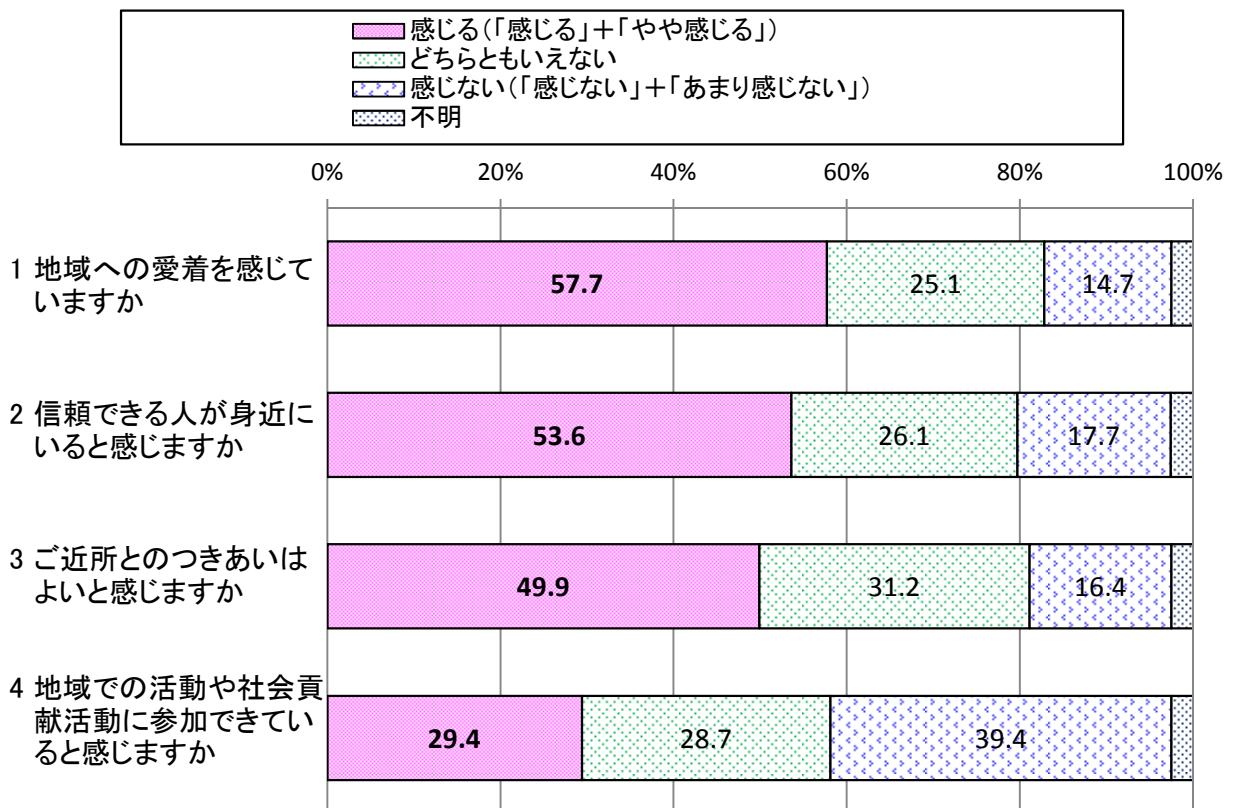
問5-6 あなたは現在、①地縁的な活動、②スポーツ・趣味・娯楽活動、③ボランティア・NPO・市民活動をされていますか。

○ 「地縁的な活動」をしている者は37.7%、「スポーツ・趣味・娯楽活動」をしている者は29.8%、「ボランティア・NPO・市民活動」をしている者は18.2%となっている。



問5-7 あなたのお住まいの地域(小・中学校区から市町村の範囲)に対する実感をおたずねします。

○ 地域への実感は、割合の高い順に、「地域への愛着を感じていますか」は57.7%、「信頼できる人が身近にいますか」は53.6%、「ご近所とのつきあいはよいと感じますか」は49.9%、「地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか」は29.4%となっている。



(参考1)問2の各調査項目一覧(満足度、重要度、ニーズ度得点)

7つの政策	No.	項目	重要度	満足度	ニーズ度
①産業・雇用～「産業創造県いわて」の実現～	1	県内経済の活性化	4.037	2.548	1.489
	2	次世代を担う産業人材育成	4.269	2.457	1.812
	3	地域資源を活用した製品開発・販売	4.144	2.847	1.297
	4	魅力ある観光地づくり	4.034	2.657	1.376
	5	商店街のにぎわい	4.209	2.246	1.963
	6	中小企業の経営力の向上	4.236	2.533	1.702
	7	海外での県産品の販路拡大	3.618	2.730	0.888
	8	安定した就職環境	4.569	2.230	2.340
②農林水産業～「食と緑の創造県いわて」の実現～	9	農林水産業の担い手確保	4.255	2.311	1.944
	10	ニーズにあった農林水産物の産地形成	4.077	2.692	1.385
	11	農林水産物のブランド確立	4.160	2.812	1.348
	12	活力ある農山漁村の形成	3.996	2.636	1.360
	13	環境に配慮した農林水産業の経営	4.239	2.660	1.579
③医療・子育て・福祉～「共に生きるいわて」の実現～	14	適切な医療体制	4.784	2.900	1.884
	15	健康に関する相談・指導	4.408	3.106	1.302
	16	安心な子育て環境整備	4.625	2.642	1.983
	17	高齢者や障がい者に安心な地域づくり	4.652	2.611	2.041
④安全・安心～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～	18	充実した地域防災	4.403	3.180	1.223
	19	犯罪への不安の少ない社会づくり	4.644	3.268	1.376
	20	交通事故の少ない社会づくり	4.678	3.084	1.594
	21	消費者トラブルへの適切な相談や支援	4.485	2.964	1.521
	22	購入する食品の安全性に不安を感じない社会	4.534	3.238	1.297
	23	移住や来訪による地域活力向上	4.347	2.750	1.598
	24	市民活動へ参加しやすい社会	4.005	3.108	0.897
	25	地域全体での青少年の健全育成	4.203	3.011	1.193
	26	個性と能力を発揮できる社会の実現	4.153	2.821	1.332
	⑤教育・文化～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～	27	学校と地域との協力	4.358	3.043
28		子どもの学力向上に向けた教育	4.397	2.985	1.412
29		人間性豊かな子どもの育成	4.619	2.980	1.639
30		子どもの体力向上	4.459	3.159	1.300
31		全ての子どもが学べる環境	4.483	2.945	1.538
32		自分に適した内容や方法で学べる環境	4.204	2.897	1.307
33		大学の地域社会貢献	4.181	2.974	1.207
34		郷土愛の向上に向けた取組	4.016	3.097	0.919
35		地域や学校での文化芸術活動	3.963	3.226	0.738
36		外国人も暮らしやすい地域社会	3.751	2.919	0.832
37		県出身スポーツ選手の活躍	4.031	3.377	0.654
⑥環境～「環境王国いわて」の実現～	38	地域での温暖化防止の取組	4.379	2.933	1.445
	39	ごみ減量やリサイクルの定着	4.440	3.440	1.000
	40	自然環境を大切に生活	4.516	3.255	1.261
⑦社会資本・公共交通・情報基盤～「いわてを支える基盤」の実現～	41	交通や物流の拠点に通じる道路整備	4.438	3.121	1.316
	42	災害に強く安心して暮らせる県土	4.640	2.895	1.745
	43	生活基盤整備が進んだ生活環境	4.466	2.731	1.735
	44	社会資本の維持管理	4.335	2.847	1.488
	45	公共交通機関の維持・確保	4.439	2.607	1.832
	46	通信ネットワークの活用	4.077	3.150	0.926
平均			4.303	2.883	1.420

注)重要度(平均)、満足度(平均)は、時系列で平均の差を検定していくため、標本平均を採用しています。

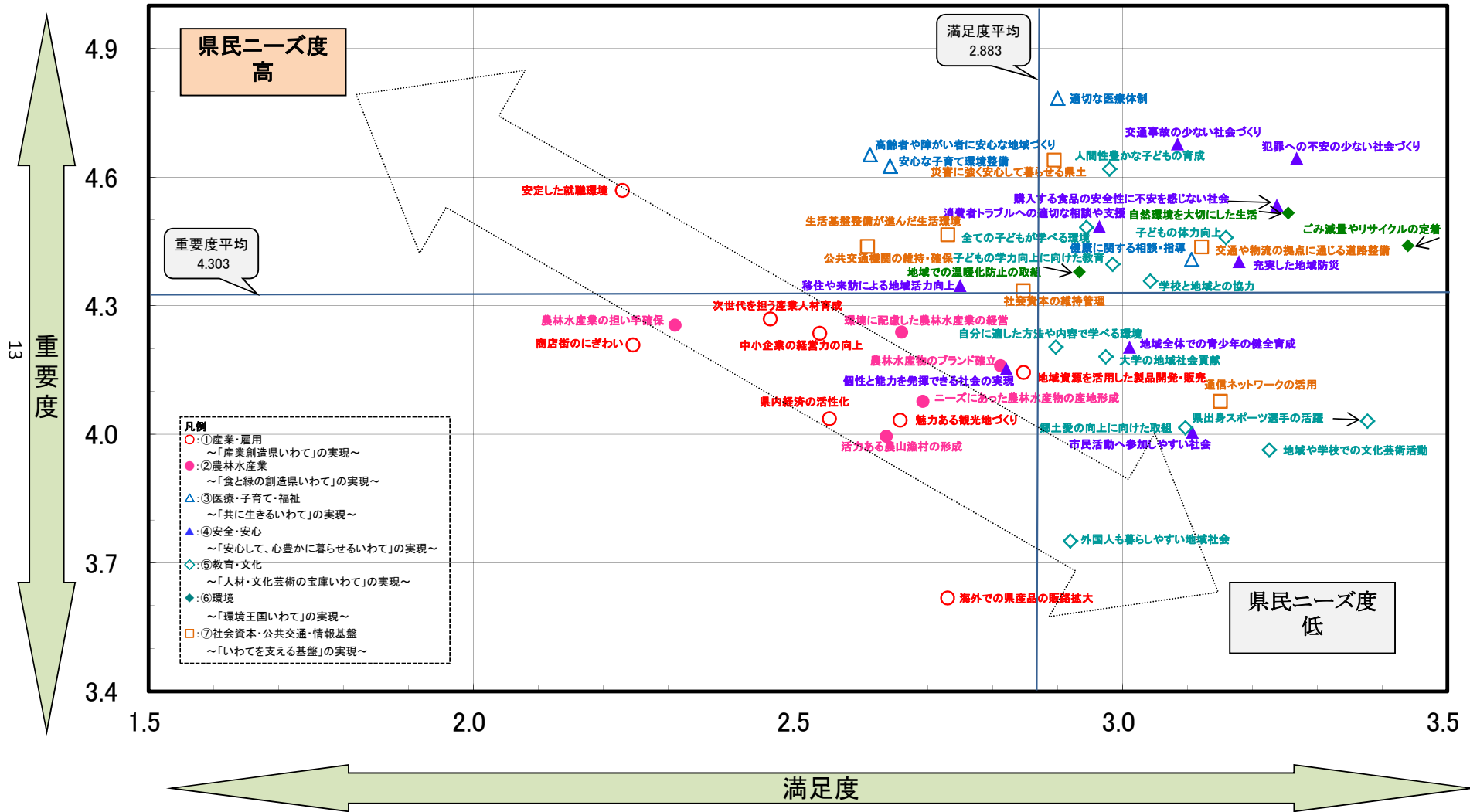
〔用語の説明〕

重要度(平均)：「重要」を5点、「やや重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要でない」を2点、「重要でない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

満足度(平均)：「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

ニーズ度：重要度(平均)－満足度(平均)
(重要度が高く、住民の満足度が低い状態を(行政)ニーズが高いと読む)

(参考2)問2の項目別の重要度と満足度の関係



※ ————— は各項目の平均値(重要度: 4.303、満足度: 2.883)

(参考3)問2の各調査項目のニーズ度の高い順

No.	項目名	ニーズ度(=重要度-満足度)			(参考)	上段:重要度 下段:満足度				
		0	1	2		0	1	2	3	4
8	安定した就職環境			2.340				2.230	4.569	
17	高齢者や障がい者に安心な地域づくり			2.041				2.511	4.652	
16	安心な子育て環境整備			1.983				2.642	4.625	
5	商店街のにぎわい			1.963				2.246	4.209	
9	農林水産業の担い手確保			1.944				2.311	4.255	
14	適切な医療体制			1.884				2.900	4.784	
45	公共交通機関の維持・確保			1.832				2.607	4.439	
2	次世代を担う産業人材育成			1.812				2.457	4.269	
42	災害に強く安心して暮らせる県土			1.745				2.895	4.640	
43	生活基盤整備が進んだ生活環境			1.735				2.731	4.466	
6	中小企業の経営力の向上			1.702				2.538	4.236	
29	人間性豊かな子どもの育成			1.639				2.980	4.619	
23	移住や来訪による地域活力向上			1.598				2.750	4.347	
20	交通事故の少ない社会づくり			1.594				3.084	4.678	
13	環境に配慮した農林水産業の経営			1.579				2.660	4.239	
31	全ての子どもが学べる環境			1.538				2.945	4.483	
21	消費者トラブルへの適切な相談や支援			1.521				2.964	4.485	
1	県内経済の活性化			1.489				2.548	4.037	
44	社会資本の維持管理			1.488				2.847	4.335	
38	地域での温暖化防止の取組			1.445				2.933	4.379	
28	子どもの学力向上に向けた教育			1.412				2.985	4.397	
10	ニーズにあった農林水産物の産地形成			1.385				2.692	4.077	
4	魅力ある観光地づくり			1.376				2.657	4.034	
19	犯罪への不安の少ない社会づくり			1.376				3.268	4.644	
12	活力ある農山漁村の形成			1.360				2.686	3.996	
11	農林水産物のブランド確立			1.348				2.812	4.160	
26	個性と能力を發揮できる社会の実現			1.332				2.821	4.153	
41	交通や物流の拠点に通じる道路整備			1.316				3.121	4.438	
27	学校と地域との協力			1.315				3.043	4.358	
32	自分に適した内容や方法で学べる環境			1.307				2.897	4.204	
15	健康に関する相談・指導			1.302				3.106	4.408	
30	子どもの体力向上			1.300				3.159	4.459	
3	地域資源を活用した製品開発・販売			1.297				2.847	4.144	
22	購入する食品の安全性に不安を感じない社会			1.297				3.238	4.534	
40	自然環境を大切に生活			1.261				3.255	4.516	
18	充実した地域防災			1.223				3.180	4.403	
33	大学の地域社会貢献			1.207				2.974	4.181	
25	地域全体での青少年の健全育成			1.193				3.011	4.203	
39	ごみ減量やリサイクルの定着			1.000				3.440	4.440	
46	通信ネットワークの活用			0.926				3.150	4.077	
34	郷土愛の向上に向けた取組			0.919				3.097	4.016	
24	市民活動へ参加しやすい社会			0.897				3.108	4.005	
7	海外での県産品の販路拡大			0.888				2.730	3.618	
36	外国人も暮らしやすい地域社会			0.832				2.919	3.751	
35	地域や学校での文化芸術活動			0.738				3.226	3.963	
37	県出身スポーツ選手の活躍			0.654				3.377	4.031	